

南船北馬2024年2月公演

# 「あっちの水は甘いのか」

作… 棚瀬美幸

登場人物…

平得タカミツ 45歳

平得ヨウコ 45歳

平得ルカ 15歳

大川タイキ

31歳

浜崎ユイ

35歳

八島サチヨ

65歳

八島サクラ

17歳

場所… 民主主義の選挙があり、自衛隊駐屯地のある、あるどこかの町。

## SCENE・1

ヨウコが朝ごはんの準備をしている。

タカミツはソファーに座っている。

ヨウコ ルカは？

タカミツ え？

ヨウコ まだ寝てるの？

タカミツ 起きてるよ。

ヨウコ 起きてる？

タカミツ さっきからずっと鼻毛抜いてる。

ヨウコ いや、あなたじゃなくて。

タカミツ え？

ヨウコ ルカ。

タカミツ ああ、ルカ。

ヨウコ そろそろ起こしてきて。

タカミツ 今日はいいんじゃないか。

ヨウコ 朝ご飯できたから。

タカミツ 休みなんだし。

ヨウコ 起こして来てくれないってこと？

タカミツ 後で食べるだろ。

ヨウコ 一緒に食べないの？

タカミツ お腹空いたら起きるって。

ヨウコ でも、

タカミツ どうせ夜更かしでもしてたんだろ。

ヨウコ せっかく休みの日で、

タカミツ そう、せっかくの休みの日なんだから。

ヨウコ あなたがいるのに。

タカミツ 俺？

ヨウコ そう、珍しく。

タカミツ 俺がいるかどうかは、関係ないだろ。

ヨウコ いつもはあなたがいないじゃない。

タカミツ いる日だってあるよ。

ヨウコ 平日でしょ。

タカミツ 平日だけど。

ヨウコ でしょう。

タカミツ 土日は休めないんだから。

ヨウコ ほら、やっぱり貴重な朝じゃない。

タカミツ だけど、可哀そうだろ。

ヨウコ 誰が？

タカミツ 誰？

ヨウコ 誰が可哀そうなの？

タカミツ ルカが。

ヨウコ ルカ？ ルカが可哀そうなわけじゃないじゃない。

タカミツ 学校が休みの日ぐらい、ゆっくりしたいだろ。

ヨウコ あの子はいつもゆっくりしてます。

タカミツ ルカじゃなかったら、誰が可哀そうって？

ヨウコ え？

タカミツ 自分がか？

ヨウコ は？

タカミツ ルカじゃないと思ってたんだろ。

ヨウコ ああ、

タカミツ 自分が可哀そうだった？ 土日に子どもと二人にされて。

ヨウコ まさか。

タカミツ じゃあ、

ヨウコ ルカが小さい頃はそう思ってたけどね。

タカミツ 思ってたんだ。

ヨウコ でも、今はルカ、中学生だから。

タカミツ それなら、誰？

ヨウコ 同僚。

タカミツ え、

ヨウコ あなたの同僚が可哀そうって言いたいのかと思ったの。あなたいい顔しいだから。

タカミツ いい顔しい？

ヨウコ 「子どもの用事で土日休みみたいんです」とか、「遠くからの友だちが旅行に来るんです」って言われると、あなた家族の予定なんて無視して、「いいよいいよ」って言っもんね。

タカミツ 無視してるわけじゃないよ。

ヨウコ でも、運動会だって来たことないよね。

タカミツ それは、

ヨウコ それは何？

タカミツ いいよ、もう。

ヨウコ 言っつよ。

タカミツ ……

ヨウコ そうやってすぐ黙る。

タカミツ ……

ヨウコ 明日の夜の集まり。

タカミツ 明日？

ヨウコ 間に合いそつ？ 仕事。

タカミツ ああ。

ヨウコ じゃあ、お願いね。

タカミツ どうせ、出席で出したんだろ。

ヨウコ そうだけど？

タカミツ じゃあ、行くしかないだろ。

ヨウコ 行っつて言ったのは私じゃなくて、あなただからね。いい顔しいの。

タカミツ 俺じゃないよ。

ヨウコ あなたよ。宮良さんに「来るだろ？」って言われて、速攻「ああ」って。

タカミツ ああ、

ヨウコ でしょうか？

タカミツ いや、

ヨウコ いや？

タカミツ 今の「ああ」は、肯定の「ああ」じゃなくて。

ヨウコ 何？

タカミツ ……いや、いい。

ヨウコ また黙る。

タカミツ 聞いてたのか、お前。

ヨウコ 何を？

タカミツ 宮良さんとのやりとり。

ヨウコ はい、聞いてましたけど？

タカミツ 出席の返事はしてないけどな。

ヨウコ してたじゃない、「ああ」って。

タカミツ 出席に丸した覚えも、出席を確約したわけでもない。

ヨウコ 往生際の悪い人ね。あ、そつだ。

タカミツ 何？

ヨウコ 宮良さん家、ポスター変えたんだね。何か聞いてる？

タカミツ ポスター？

ヨウコ これまでイサムさんだったじゃない。

タカミツ え、イサムさんじゃなくなったのか？

ヨウコ うん。

タカミツ まさか。

ヨウコ でしょうか？

タカミツ だって、イサムさんまだ若いだろ。

ヨウコ あなたと同じくらいじゃない？

タカミツ だろ。引退とかの話題、聞いたことないし。

ヨウコ でしょうか？ だから病気が何かとか、何か知ってるのかなって。

タカミツ いや、何も。

ヨウコ もしかして親戚で仲間割れとか？

タカミツ 仲間割れ？

ヨウコ ユミカさんが離婚して、イサムさんとか縁を切ったとか。

タカミツ そうなのか？

ヨウコ 知らないけど、私は。

タカミツ でも、ユミカさんが離婚とか、もしそつだとしても、

ヨウコ しそつじゃない？

タカミツ しそつ？

ヨウコ ユミカさんと「」。

タカミツ 離婚を？

ヨウコ 最近、この辺りで見かけること多いし。実家に帰って来てるんじゃないのかなって。

タカミツ そうなのか？

ヨウコ あなた、見たことないの？。ピンクのジャージ着て黒い帽子被って、売店に来てるじゃない。

タカミツ 売店行かないから。

ヨウコ 離婚して親族同士でケンカでもしてなかったら、イサムさんが引退したとしか考えられないし。

タカミツ 一時的に政党のポスターにしてるだけじゃないのか。

ヨウコ それが違うのよ。

タカミツ 違つって？

ヨウコ 真栄里さん。

タカミツ え？

ヨウコ 真栄里ヒデツグさんのポスター。

タカミツ 真栄里ヒデツグ？

ヨウコ イサムさんじゃなくて。

タカミツ なんて、

ヨウコ だから、なんでって、

タカミツ 真菜里ヒデツグっていったら、

ヨウコ イサムさんと一緒じゃないよね。

タカミツ 真逆の政党だろ。

ヨウコ おかしいでしょう？

タカミツ 宮良家は一家揃ってイサムさん派だっただろう、選挙の手伝いもして。

ヨウコ なよね、不思議なんだよね。

タカミツ 誰かが勝手に貼り換えたとか・・・そんなことはないか。

ヨウコ ねえ、聞いて来てよ。

タカミツ 誰が？

ヨウコ 宮良さんに。

タカミツ 俺が？

ヨウコ 明日の集まりでいいから。

タカミツ いや、でも、

ヨウコ みんな気になってるはずだから、誰か援護してくれるって。

タカミツ いくら何でも、

ヨウコ あなたなら大丈夫よ。政治色のついてない人で通ってるから。

タカミツ だからこそ、

ヨウコ 隠すの上手だもんね、本音を。

タカミツ え？

ヨウコ 大丈夫よ、バラしたりなんかしてないから。

タカミツ 隠してるわけじゃなくて、

ヨウコ わざわざ言う必要がないだけって言うんでしょ？ 分かってるから。

タカミツ あのさ、

ヨウコ だから、大丈夫だって。

タカミツ そうじゃなくて、

ヨウコ 嫌なら、聞かなくていいから。

タカミツ だから、そうじゃなくて、

ヨウコ え、

タカミツ あのさ、

ヨウコ うん、

タカミツ あの、ポスターなんだけど、

ヨウコ うん、

タカミツ トモキ君の貼ろうと思って。

ヨウコ は？

タカミツ 塀の角に。

ヨウコ え？ うちの？

タカミツ そう。

ヨウコ え、どついうこと？

タカミツ 角だと、交差点に面してるから目につくかなって。

ヨウコ うちの塀にポスター？

タカミツ そう、トモキ君のポスター。

ヨウコ トモキ君って、もしかして、

タカミツ 新川トモキ。

ヨウコ 新川トモキ。

タカミツ そう、新川トモ・

ヨウコ いいって。

タカミツ え、

ヨウコ 分かったから。

タカミツ え、じゃあいいの？ てっきりお前は、

ヨウコ そうじゃなくて、

タカミツ じゃなくて？

ヨウコ いいとかじゃなくて・・・ちよつと待ってよ。

タカミツ うん、

ヨウコ なんで？ なんでいきなり。

タカミツ いきなりではないんだけど、やっぱりいきなり感ある？

ヨウコ あるある、大あり。大穴万馬券。

タカミツ 競馬やったことないから。

ヨウコ 私だってない。

タカミツ 言論の自由を行使しようかなと。

ヨウコ あなたが？

タカミツ うん。

ヨウコ これまで政治色のついたイベントを避けてきたあなたが？

タカミツ まあ、そう言われればそうだけ。

ヨウコ それもよりによって、トモキ君のポスターって。これまで反対していた立場のトモキ君の？

タカミツ 反対してたわけじゃない。投票はしなかったけど。

ヨウコ あ、もしかして嫌がらせ？

タカミツ は？

ヨウコ 目玉に画鋲さすとか？ 髭描いて頼っぺたに渦巻描くとか？

タカミツ 小学生じゃあるまいし。そんなわけないだろ。

ヨウコ あなた、そんなわけないだろって事、言ってるのよ。分かる？

タカミツ そこまで驚かなくても、

ヨウコ 驚くでしょう。

タカミツ そうか。

ヨウコ 拾った馬券が万馬券だったぐらいの驚きよ。

タカミツ それって、褒めてる？

ヨウコ へ、

タカミツ それとも貶してる？

ヨウコ は？

タカミツ 俺が万馬券だって褒めてくれてるのか、それとも落ちてたことを貶してるのか。

ヨウコ どっちでもない。というか、そんなこと問題じゃない。

タカミツ なんだ、褒めてくれたのかと思った。

ヨウコ それぐらい驚いてるってこと。

タカミツ もうすぐ印刷出来上がるらしいから。

ヨウコ 本気？

タカミツ うん。

ヨウコ トモキ君がダメってことはないのよ。トモキ君はいい子だし。ルカがお世話になってたし。

でもね、ポスターを貼るってことは、

タカミツ 宮良さんとこみたいにな、噂になるってことだろ？

ヨウコ そう。あの家、実はそっち側の運動家だったんだって。

タカミツ (笑) それはそれで面白い。

ヨウコ あなたが、保守的なあなたが、急にトモキ君の応援に回るなんて、私には理解できないけど、

百歩譲って理解するとして、でも、ポスターまで貼って周囲にアピールするなんて。

タカミツ 黙ってちゃダメなんだよ。

ヨウコ 黙ってちゃって、これまで外で何の意見も言わなかったあなたが言っ言葉？

タカミツ だな。

ヨウコ そうでしょう？ あなた今まで、選挙活動している人のこと、面倒な人だって嫌悪してたじ

やない。宮良さん家みたいにポスター貼るのだって、

タカミツ でも、その人の知名度が上がるのは事実だろ。

ヨウコ ああ、あの、今まで政治色のついてなかった平得さんが実は応援している人だってね。

タカミツ どんな理由であれ、名前を知ってもらうことは大切だから。

ヨウコ あなたの名前が知られるのよ、トモキ君を応援している平得だって。

タカミツ 俺は気にしない。

ヨウコ あなたが気にしなくても、私が気にする。

タカミツ じゃあ、お前が応援したい人のポスターも貼ればいい。

ヨウコ は？

タカミツ 並べてでもいいし。別の扉でも。

ヨウコ そんなことしたら、近所の笑い者じゃない。ううん、近所の笑い者どころじゃない、SNSで拡散されて日本中の笑い者よ。

タカミツ バズりでもしたら、トモキ君ともう一人の名前が広がるな。

ヨウコ 私たち二人もね、夫婦喧嘩を公開してる恥さらし夫婦って。

タカミツ 恥さらし夫婦か。宮良さんのとこ以上に噂になりそうだな。

ヨウコ 私は絶対、ポスターなんか貼りません。二枚違う政党のを貼るなんてあり得ない。一枚だってあり得ない。

タカミツ どんな意見にしろ、言っていかなきゃ。言っていくことで議論が生まれるんだから。

ヨウコ 言っていくことで対立が生まれるんだって、言ってたのはどこの誰よ。

タカミツ 宮良さんが、ポスターをイサムさんから真菜里さんに変えた。これだけで議論が生まれる。

ヨウコ 生まれるのはただのゴシップじゃない。家や親族のいざこざをネタにされるだけ。私は反対だから、ポスターを貼ること。

ヨウコ、出て行こうとする。

タカミツ おい、

ヨウコ ルカ、起こしてくる。もう冷めちゃってるけど、全部。

ヨウコ、出て行く。

タカミツ こんにちは。新川君が運営していることも食堂をお手伝いしている平得と申します。新川君は、子どもの居場所づくりに日々奮闘しています。こども食堂について様々な意見があることと、思います。新川君は、意見があることが当たり前であり、もっと議論がされることを望んでいます。どんな課題も、答えが一つであることではない。何が最善なのか、みんなで必死に知恵を絞り、言葉を交わしていくしかないよ、新川君は考えています。それはとても容易なことではありません。しかし彼は、議論し合える環境が必要なのだと、そのために政治を変えていきたいと、政治家を志しました。

ぜび、新川トモキ君という、政治家を志す青年がここにいることを、情報共有と議論が必要であるという信念を貫く若者がいることを、知っていただきたいのです。

喋っている間に、タカミツの顔は高揚してきていたが、急激に無になる。

暗転。

## SCENE・2

タイキがテレビを見ている。

ユイが部屋に入って来る。

ユイ あがったよ。入れば？

タイキ いや、今ちようどいいとこだから。後で入る。

ユイ 冷めちやうよ。

タイキ え？

ユイ お風呂。

タイキ お湯足せばいいじゃん。

ユイ (テレビを見て) 何見てんの？

タイキ ん？ なんかあの、去年ぐらいいので、香港もの。

ユイ あ、それ、私も見てない。見たかったやつだ。

タイキ え、じゃあ、

ユイ 何話？

タイキ え、

ユイ 何話見てるの？

タイキ 7話。

ユイ 7話かあ。すでに後半じゃん。

タイキ うん、

ユイ 1話にしている？

タイキ え、

ユイ だって、途中からじゃ話分らない。

タイキ うん、

ユイ だめ？

タイキ え、いや・・・いいけど。

ユイ ありがと。

タイキ 今から6話までもう一回見るの？

ユイ もう一回って、あ、タイキがってこと？

タイキ うん、

ユイ いや、6話まで全部なんか見ないよ。朝じゃん。

タイキ よかった。

ユイ 疲れてるし、バイト終わりで。

タイキ じゃあ、

ユイ なんか見る気失せた。

ユイ、テレビを消す。

タイキ いいのに、

ユイ もういいよ。

タイキ 見ても、1話。

ユイ 明日、バイト早いわけ。

タイキ バイト？

ユイ そう、朝から。

タイキ 朝？ 何時から？

ユイ 9時。

タイキ え、早っ。

ユイ でしょう？

タイキ ユイ、朝弱いのに。

ユイ ほんとよ。ってプーのタイキに言われたくないし。

タイキ 何のバイト？

ユイ イベントの受付。

タイキ まじで？

ユイ 行きたくなんだけどさ。

タイキ なんでまた、

ユイ 昨日、アヤノに頼まれたわけ。

タイキ アヤねえねに？

ユイ アヤノも知り合いに頼まれて引き受けたらしいんだけど、熱出したから代わりに行けって。

タイキ 熱かあ、

ユイ 主催者に「熱でいけません」って言ったら、今さら別の人探せないから、お願いだから誰か代わりの人探してって。

タイキ それでユイ？

ユイ だからよね。ほんとほ、タイキに行かせようと思ったんだけどさ、

タイキ 俺？

ユイ でも、女じゃないとダメだって言うから。

タイキ セーフ。けど、なんで？

ユイ なにが？

タイキ なんで女じゃないとダメなの？ コスプレして受付でもすんの？

ユイ なに、どんな想像してんの？

タイキ いや、別に。でも、なんか今時じゃないね。女じゃないと受付ダメって。

ユイ 内容。

タイキ ないよう？

ユイ イベントの内容が女性向けなわけ。シングルマザーとか被害者とかDVの。あと、仕事探してる女性とかもいるらしいけど。

タイキ ああ、

ユイ タイキも女装して行ってみる？

タイキ なんで？

ユイ 職探し。

タイキ いいの見つけたところで、女じゃないと応募できないんでしょ？

ユイ あ、そっか。

タイキ それに怖くてヤダよ、女ばっかなんて。

ユイ タイキの女装、似合いそうなの。

タイキ あれみたいにな？ 家政婦のミタゾノ。

ユイ あれは女の設定でしょ。

タイキ え、じゃあ俺は毛むくじやらの女装男？

ユイ どんな偏見よ。

タイキ だって、

ユイ あ、そっだ。

タイキ くん？

ユイ ネットフリ、プラン下げるね、来月から。

タイキ プラン変更ってこと？

ユイ うん、広告付きにしようかと思ってさ。

タイキ 広告付き？ 広告って、

ユイ 1時間に4分だって。

タイキ 4分か。んー、

ユイ テレビのコマーシャルと思えば、4分なんて短いっしょ。

タイキ でもどうして？

ユイ タイキ、ずっと家にいるし、ネットフリ見てるっしょ？ かなり。

タイキ かなり、かな、見てはいるけど。

ユイ 今のプランだと、一台しか見れないさあね。

タイキ うん、

ユイ 新しく出たプランだと2台見れるわけ。

タイキ え、そうなの？

ユイ それで790円。

タイキ 790円？ じゃあ、

ユイ 今は990円。

タイキ 200円か、

ユイ そう、200円。2台に増えて、毎月200円安くなる。上等！

タイキ 微妙じゃない？

ユイ 微妙？

タイキ 広告、邪魔だし。

ユイ え、嫌？

タイキ 嫌っていうか、

ユイ だって、今のままだと、タイキが見てたら、私が見れないさ。

タイキ 一緒に見ればいいじゃん。

ユイ 一緒に？

タイキ ユイの好きそうなの見るから。

ユイ また1話から見ることなるよ。

タイキ あ、

ユイ でしょ？

タイキ それでもいいから。

ユイ でも、もう決めたからさ。

タイキ そうなの？

ユイ 節約しないといけないさあね。

タイキ 節約？

ユイ 最近、また飲み会増えるわけ。だからちょっと、

タイキ まだ飲むの？

ユイ まだ？

タイキ だって、毎日飲んでんじゃん。

ユイ それは職場で飲むことがあればさー。

タイキ 終わってから飲んで帰ってきてるさー。

ユイ 居酒屋なんだから仕方ないさー。

タイキ 仕事終わってるんだから、飲まなくてもいいさー。

ユイ もちろん飲まなくてもいいけど、飲んでもいいさー。

タイキ 飲んでもいいけど、いいけどさあ、

ユイ でしょ？ 仕事終わりは一杯飲みたいたって、速攻で。働いてないタイキには分からんらろ

うけど。

タイキ そのことなんだけどさ、

ユイ ん？

タイキ そのこと、

ユイ そのことって？

タイキ 働いてないってこと、

ユイ もしかして就労意欲湧いてきたとか？

タイキ そういうんじゃないんだけど、

ユイ じゃあ、

タイキ ま、そうなのかな。応募してみようかと。

ユイ 応募？

タイキ そう。

ユイ 何にね？

タイキ 仕事。

ユイ へー、いいね。やる気になったわけね。で、どんなとこ？

タイキ どんなどこっていうか、

ユイ いいとこ求人出てたわけ？

タイキ 公務員なんだけど、

ユイ 公務員？ タイキ公務員なるの？

タイキ いや、まだ応募するっというだけで、

ユイ まじ？

タイキ 事務じゃなくて、なんていうの、現場っていうの？

ユイ 消防とか？

タイキ じゃなくて、

ユイ じゃあ、警察？

タイキ でもなくて、

ユイ え、じゃあ、なんだ、現場っていうと。水道関係？ それとも、

タイキ 自衛官なんだけど、

ユイ え、

タイキ 自衛官。

ユイ 自衛官？

タイキ そう。

ユイ 自衛隊ってこと？

タイキ 33歳未満まで応募できるみたいで。

ユイ うん。

タイキ 俺、まだ31歳だし。

ユイ うん。

タイキ 33歳未満ってことは、32歳までってことでしょ？

ユイ うん。

タイキ 5年くらい前までは26歳までだったみたい。自衛隊って若くないと入れないと思ってたけど、変わったんだね。今は32歳まで、32歳。

ユイ で？

タイキ 少子化だからかな。バッチリじゃない？ 31歳、ギリギリセーフ。なんなら1歳余裕あるし。

ユイ まじ？

タイキ え、うん。

ユイ タイキが自衛官？

タイキ 今から鍛えれば。

ユイ 厳しい訓練に耐えられるの？

タイキ 自信はないけど、やってみる。

ユイ 規律重視なんだよ？ ルールをなし崩しにしていくタイキに規律って。

タイキ ルール守りたいとは思ってるし、ずっと。

ユイ 上下関係とか嫌いなくせに。

タイキ 嫌いだけど、人に従うことはできる。

ユイ 寮生活なんだよ？

タイキ え、

ユイ 寮生活

タイキ そうなの？

ユイ 当たり前でしょ。

タイキ でも、自衛隊の宿舍あるじゃん。あそこから通うんじゃないの？

ユイ よく知らないけど、ある程度の階級になったら、基地の外の家や宿舍から通えるらしいけど。

タイキ ある程度の階級って、じゃあ、最初はダメなの？

ユイ 最初はもちろん寮、基地の中の。

タイキ マジか。

ユイ 最初っから通いだったら、規律乱れっぱなしじゃん。普通の就職とは違うんだから、自衛隊だよ、自衛隊。

タイキ でも、いつかは出られるんだよね？

ユイ 階級とか年齢とか、結婚してるかとか関係あるらしいけど、よく知らない。

タイキ ユイ、なんか詳しいね。

ユイ タイキが知らない過ぎなんだって。応募しようとしてると思えない。

タイキ なんてユイは知ってるの？ 応募しようとしてたわけじゃないんでしょ？

ユイ 私が自衛隊に応募しそつに見える？

タイキ いや、全く。

ユイ でしょう。

タイキ じゃあ、

ユイ 高校の同級生で入った子がいたから。

タイキ 誰？

ユイ え、タイキは知らないって。4つも上だよ？

タイキ 知ってるかもしれないさ。誰？

ユイ 石垣尚宏。

タイキ へー、ナオヒロ、

ユイ 石垣ね、石垣尚宏。

タイキ ナオヒロにいにいね。

ユイ ほら、知らないじゃん。成人式も来なかったし。同窓会があっても、来た事ない子だから。

タイキ その人と今でも連絡とれる？

ユイ え、無理無理。卒業して、何年？ 35引く18だから、17年だよ。17年も前だもん。

タイキ だよね。

ユイ あ、でも、噂だとこっちの駐屯地の配属になってるって。

タイキ へー、じゃあ、いま同窓会したら、その人も来るんじゃない？

ユイ どうなんだろう、こっちいるっていうのもただの噂だから。

タイキ こっちの噂は、だいたい事実じゃん。

ユイ ねえ、

タイキ なに？

ユイ なんでタイキ、突然自衛官って、

タイキ うん、

ユイ 今までそんな事一言も言ってなかったじゃん。

タイキ まあね、

ユイ なんで？

タイキ そろそろ本気で働かないといけなくなって。

ユイ それで自衛隊？

タイキ ユイとのこともちゃんと思いたいと思ってて。

ユイ 私？

タイキ ユイ、前に言ってたじゃん。今みたいに居酒屋でバイトしたら、子ども産めないなって。

ユイ うん、

タイキ だったら、やっぱり俺が働くしかないかなって。

ユイ それで自衛隊って？

タイキ どうせ身を粉にして働くなら、大義名分っていうか人の役に立ちたいなって。せつかく地元

に帰ってきたのに、何もしてないし。帰ってきた意味あるのかなって。

ユイ 親は喜んでるじゃん。

タイキ それはそうかしれないけど、もっと明確に、このために、ここにいるんだぞっていう、

ユイ それが自衛隊？

タイキ 国を守るって、明確な目的じゃん？

ユイ ……国を守る？

タイキ そう。だって、自衛隊は国を守るところでしょ。

ユイ タイキは国を守りたいの？

タイキ もちろん守りたいよ。戦争は嫌だけど、国は守りたい。

ユイ タイキがそんなこと言つとは、

タイキ ユイ？

ユイ あ、ごめん、なんでもない。

タイキ ごめん、俺が急なこと言い出したから。ユイ明日早いつて言ってたのに。

ユイ ううん、

タイキ お風呂入って来る。今ならお湯足さなくていいだろうし。ガス代もつたいないし。

タイキ、出て行く。

ユイ ガス代なんか気にしたことないくせに。

タイキの声 うっわ、びっくりしたー。

ユイ どうかした？

タイキの声 ヤモリ、ヤモリ。

ユイ ヤモリ？

タイキの声 降ってきたんだって、ヤモリが、上から、ドア開けたら。

ユイ それぐらい普通でしょ。

タイキの声 普通じゃないよ。急に降ってきたら驚くたる。こっちは服脱いでんのに。

ユイ たかがヤモリぐらいで。

タイキの声 ぬっるー。ごめん、やっぱりお湯足させて。

ユイ 弱っちいなー。そんなんで国守れるんかよ。

タイキの鼻歌が聞こえてくる。

ユイ 尚宏へ、ご無沙汰しています。こちらの駐屯地に配属となり、戻られてると風の便りで聞きました。久しぶりの故郷はどうですか？ 17年前のあの頃とは、自衛隊を取り巻く状況も変わりましたね。同級生たちが、たまに尚宏のことを話題にします。もしあの時、尚宏と別れていなければ、と考えてしまいました。傲慢ですよ。だって、怖がって逃げ出したのは私なんだから。何も考え

ずに自衛官を自指す人もいるそうですね。でも、あなたは違った。しっかりと自分の意見を持ち、周りの人のことを考え、その上で国のことを考えていた。だから、私は怖かった。大好きな人が遠くに行ってしまうようで。

お変わりありませんか？ あなたから見る日本は、まだ平和ですか？

読み終えた手紙を丸めて遠くへ放るような仕草をするユイ。

暗転。

### SCENE・3

何かを必死に探している様子のサクラ。

サチヨ サクラー。

サチヨが部屋に入ってくる。

サチヨ サクラ、ちょっと手伝って。

サクラ しっ。

サチヨ え？

サクラ だから、しっーって。

サチヨ なに、

サクラ もう、

サチヨ は？

サクラ 静かになって言ったのに。

サチヨ なにさ。

サクラ 分かんなくなっちゃんか。

サチヨ 何が？

サクラ 蠅。

サチヨ 蠅？

サクラ 殺したろうと思って、めっっちゃうぜい。

サチヨ ああ、蠅。

サクラ ぶんぶん飛び回りやがって。

サチヨ 蠅だからね。

サクラ なんであんなうざい生き物がこの世の中に存在するん？ いらんやろ。

サチヨ 蠅には蠅の存在価値があるんさあ。

サクラ 何、蠅の存在価値って。ないやろ。

サチヨ あるさあね、きつと。

サクラ ないわ、ないない。あるわけないやろ、蠅ごときに。

サチヨ サクラには分からなくても、あるさあよ。

サクラ おばあちゃんには分かるん？ 蠅の存在価値。

サチヨ 分かるさ、おばあちゃんには分かるよ、自然界において重要な役割があるわけよ。

サクラ 何？

サチヨ それは、ほら、蝶と同じなんだはず。

サクラ 蝶？

サチヨ 媒介とかしてくれるさ。

サクラ 花から花へって？

サチヨ 排泄物とか死骸とかを媒介して、分解の協力してくれるわけよ。

サクラ 最悪やん、うんちや死体を飛び回るって。さっさと殺さな。今、どーおるっ。

サチヨ え？

サクラ 蠅。

サチヨ 見えんけどねえ。

サクラ 音せえへん？  
サチヨ 音？  
サクラ さっきまでしとったんよ。ブンブンブン。  
サチヨ ー、  
サクラ おばあちゃんが来るまで、めっさ音しとったのに。  
サチヨ もし飛んでたとしても、おばあちゃんにはねえ。  
サクラ で、何？  
サチヨ ああ、  
サクラ なんか手伝ってって。  
サチヨ お布団干したんだけどね。取り込めなくて。  
サクラ 分かった、後でやる。  
サチヨ 後じゃなくて、今入れなさい。曇ってきたし。  
サクラ 分かったから。  
サチヨ 干すには干せたんだけど、腕が上がりなさい。また登野城さんとこ行かんといけんけど、時間がないっさあ。  
サクラ 登野城さんって？  
サチヨ 整形外科の登野城さん。  
サクラ ああ、  
サチヨ 混むさあねえ、登野城さん。  
サクラ おばあちゃん、腰も痛いって言うしとったやんか、はよ行かな。  
サチヨ 仕事が休めなくて、なかなか。  
サクラ そんなん休んだらええやんか。パートやねんから。  
サチヨ 人が足りないって言われるとねえ。  
サクラ 無視無視。蠅と一緒に。  
サチヨ 蠅と一緒に？  
サクラ 蠅と一緒に無視。  
サチヨ あんた、蠅、無視できないくせに。だからうるさいって。  
サクラ とにかく、おばあちゃんはや病院行き。  
サチヨ でも、休むとお金減るさあ。今は何もかもが値上がりしてるから、少しでも稼がないと。  
サクラ うちも働かし。  
サチヨ サクラが？  
サクラ そうそう。  
サチヨ そうそうって、  
サクラ っていうか、もう働いてるし。  
サチヨ え、そうば？  
サクラ せやねん、まだ来月にならなバイト代入ってけえへんけど。  
サチヨ いつからね？ いつから働いてたの？  
サクラ 先週。  
サチヨ ちっとも知らなかった。  
サクラ 出掛けるって言うたで。  
サチヨ 出掛けるって言われても。  
サクラ 何時ぐらいになる？って聞かれたから、10時半には帰ってるって言うたで。  
サチヨ そんなこと、覚えてないわ。  
サクラ 鍵忘れないようになーって言うしとったで、おばあちゃん。  
サチヨ まあ、そうは言うさあ、夜だったら。  
サクラ 帰って来たら、いつも通り寝てたけど。  
サチヨ そりゃあ寝るよ。朝から仕事なんだから。  
サクラ そないに遅い時間やないのに。  
サチヨ 何度も言うけど、高校生のサクラとばあちゃんの、夜遅いって言う時間の定義が違っさあ。  
サクラ おばあちゃんは9時過ぎたら夜中やろう？  
サチヨ サクラが遅すぎるだけ。12時や1時まで起きてる時もあるでしょう。  
サクラ そんなん普通やん。  
サチヨ で、本当に10時半に帰ってきたの？

サクラ もちろん。  
サチヨ 高校生は10時までしかバイトできないんだからね。  
サクラ はいはい。  
サチヨ ちゃんと守ってくれる店ならいいけど。  
サクラ それは大丈夫。  
サチヨ そうは言っても、お客さん次第でもうちよっとお願いとかが、  
サクラ 10時閉店だから、レジメの人は伸びるかもだけど、うちは帰れるし。  
サチヨ 閉店がズルズル伸びたりとか。  
サクラ 10時15分には点呼があるらしいから、10時より伸びることはないんだって、  
サチヨ てんこ？  
サクラ 10時15分点呼で、10時半就寝らしい。  
サチヨ は？ 刑務所？ 寝る時間が決まってるってこと？  
サクラ 刑務所やなくて、居酒屋。正確にはビアパブ言うらしい。  
サチヨ ビアパブ？  
サクラ 自衛隊の。  
サチヨ え、  
サクラ 自衛隊のビアパブ。なんかアメリカンチックでしょ？  
サチヨ 自衛隊？  
サクラ そう、新しくできた駐屯地の。  
サチヨ あんた、駐屯地の中で働いてるの？  
サクラ そう。いつかカードももらえんやて、通行証みたいなの。  
サチヨ やめなさい。  
サクラ え、  
サチヨ だから、やめなさい、そんなバイト。  
サクラ なんて？  
サチヨ なんて？  
サクラ バイトはしていいって言うってたやん。  
サチヨ それはそうだけど。  
サクラ こんないいバイト、そうそうないで。  
サチヨ どこがいいの、自衛隊相手に。  
サクラ いいとこ尽くめやん。まず第一に、安全でしょ。泥棒とか来えへんやん。  
サチヨ そりゃ、泥棒は来ないだろうけど、攻撃されたら終わりさあ。  
サクラ そないに攻撃なんかされるわけないやん。  
サチヨ 分かんよ。なんたらアラームっていうの、最近多いし。  
サクラ なんたらアラーム？  
サチヨ そう、夜中とかでもお構いなしのアラーム。この間だって、ミサイルがどうのって寝てたの  
起こされて。  
サクラ ああ、Jアラート。  
サチヨ そう、それそれ。いつミサイルが落ちてくるか。  
サクラ ほんまにミサイルやったら、こんなポロポロのアパートいるより、自衛隊の基地の方が安全  
やっちゆうねん。  
サチヨ ポロ家で悪かったね。  
サクラ それに、変なお客も来えへん。いちゃもんばっかつけるクレーマーも、ストーカーしそうな  
奴だつて。  
サチヨ 自衛官がストーカーになるかもしれないさあ。  
サクラ それはないね。だって、上官の言うことは絶対だから、変なことできへんて。それに、若い  
人は基地の中に住んで、夜外出できへんし。  
サチヨ ストーカーされなくても、交際迫られたり、  
サクラ 一度モテてみたかったんだよね。女子の自衛官って少ないみたいやから、チャホヤしてもら  
えるかなつて。  
サチヨ やめなさい、水商売みたいな考え方。  
サクラ だって、モテたことないから、モテてみたい。それに、めっちゃいいやん、自衛官との恋愛  
つて。

サチヨ 本気？

サクラ カッコいいやん。鍛えてるから何かあったら助けてくれそつだし。最近のなよなよ男子より断然いい。

サチヨ 暴力ふるわれたら？

サクラ そんなことないで。もしあったら別れればいいだけやん。自衛官って国家公務員なんですよ？ うまくいったら、私働かなくていいんちゃう？ 今時珍しい専業主婦になれるんちゃうの。

サチヨ 誰に似たんかねえ、その考え方。

サクラ うち、おばちゃんに似てるって言われてたで、小っちゃい頃からずっと。

サチヨ どこが？ 考え方は正反对じやない。

サクラ 気が強いところらしい。隔世遺伝やなって。

サチヨ サクラは、気が強いんじゃないやなくて、向こう見ずなだけでしょ。

サクラ それに、面白そうやんか、基地の中で働けるなんて。大阪でなんか聞いたことない、基地でのバイトで。

サチヨ 大阪には駐屯地ないから。

サクラ ちゃうねんで。

サチヨ 違うって？

サクラ 大阪にも駐屯地あるんやって。バイトん時、教えてもろてん。

サチヨ どこに？ どこにあるの。

サクラ 伊丹。伊丹にあんねん。全然知らんかった。

サチヨ あんた、伊丹を大阪と思ってたの？

サクラ え、だって、伊丹は大阪やろ。

サチヨ 兵庫。

サクラ え、

サチヨ 伊丹は兵庫県。

サクラ 兵庫も大阪やん。一緒一緒。

サチヨ 兵庫県民に怒られるわ。

サクラ 「どこから来たの？」って訊かれて、「関西」って応える人が、兵庫県民やん。関西イコール大阪やねんから、兵庫も大阪の一部でええねんで。

サチヨ 奈良や和歌山だって、

サクラ そっちの人はちゃんと自分の県言うねん。兵庫の人だけ、「関西」って。大阪人は「大阪」って応えるけど。

サチヨ あんた、友だち少ないでしょう。

サクラ 悪い？

サチヨ まあ、そうじゃなかったら、おばあちゃんのとこまで来ることないさあね。

サクラ 友だち少ないから、島流しされたわけちゃうけどな。

サチヨ 島流しって、犯罪者みたいな言い方。

サクラ そうやん。犯罪者やないのに、こんなとこまで。

サチヨ 仕方がないさあ。まだ子どもなんだから。

サクラ うちが大阪にいたかったのに。

サチヨ 高校卒業したら、好きにしたらいから。

サクラ 高校生って嫌やわ。大人の都合に合わせて、子ども扱いされたり、大人扱いされたり。

サチヨ そういふ年齢なんだから、仕方がないさ。

サクラ 生きてたくないな。

サチヨ え？

サクラ 楽しいこと何もないし、学校も、ここも。

サチヨ 若いのに、そんな寂しいこと言わないの。

サクラ だって、事実やねんもん。

サクラ、出て行くこうとする。

サチヨ ちよつと待ちなさい。まだ話 終わってないでしょう。

サクラ お布団、入れるんでしょ。雨降ってきたで。

サチヨ あ、雨？

サクラ おばちゃん、耳悪いから。小雨、さっきから。  
サチヨ あら、  
サクラ バイトすぐに辞めるなんてできへんから。先輩の車で送り迎えしてもらおう段取りになってるし。辞めたくないし。

サクラ、出て行く。

サチヨ いつまでですか……働けるうちはずっと……年金だけではとても……同居して3カ月ほどです……今のところ、進学とかは考えてないよつで……え、食堂ですか……今のところが閉鎖になるなら、せひ移りたいです……基地ですか？……自衛隊の駐屯地……あの、いつの間にかうちの会社が自衛隊の食堂に……そうなんですか……私が責任者ですか？……朝早いことは問題じゃないんですけど……少し考えさせてください。

考えるサチヨの顔は明るくない。

暗転。

#### SCENE・4

タカミツが朝ごはんの準備をしている。  
ヨウコはソファに座っている。

タカミツ ルカは？

ヨウコ え？

タカミツ まだ寝てるのか？

ヨウコ 起きてるわよ。

タカミツ 起きてる？

ヨウコ さっきからずっとテープ貼ってる。

タカミツ いや、お前じゃなくて。

ヨウコ え？

タカミツ ルカ。

ヨウコ ああ、ルカ。

タカミツ そろそろ起こしてこいよ。

ヨウコ 今日はいいんじゃないの。

タカミツ 朝ご飯できたから。

ヨウコ 休みなんだし。

タカミツ 起こしに行かないのか？

ヨウコ 忙しいのよ。

タカミツ 誰が忙しいって？

ヨウコ え？

タカミツ ルカが忙しいわけないだろ。

ヨウコ そりゃあ、寝てるだけなんだからねえ。

タカミツ じゃあ、誰が、

ヨウコ 私に決まってるじゃない。

タカミツ え、

ヨウコ トモキ君のポスターが昨日届いたのよ。一日でも早く貼ってあげたほうがいいかなって。

タカミツ ポスター？

ヨウコ そう、トモキ君のポスター。今週末は高校でイベントあるじゃない？ だから、この道も多くの人が通るだろうから、早く貼ってあげた方がいいんじゃないかと思って。

タカミツ お前、トモキ君のポスター貼るのか？

ヨウコ うん。

タカミツ そっち側の運動家って見られるって、嫌がってたじゃないか。

ヨウコ あの時はそう思ってたわよ、本気で。トモキ君のポスターを塀にいきなり貼り出したら、どんな目で見られるんだろうって。

タカミツ そうだろ？ だったら、止めた方がいいんじゃないか。

ヨウコ え？

タカミツ ポスター。

ヨウコ なんで？

タカミツ なんてって、

ヨウコ トモキ君のポスターなんだよ。

タカミツ だからこそ、

ヨウコ は？

タカミツ だからこそ、っていうか、だからこそは良くないよな。たとえどんなポスターでも、あえて貼らなくてもいいんじゃないか。

ヨウコ は、何言ってるの。

タカミツ ごく当たり前のことを、

ヨウコ あなたが貼るって言い出したんじゃない。

タカミツ え、

ヨウコ トモキ君のポスター。

タカミツ ああ、

ヨウコ ああって、あなたでしょう、貼るって言い出したの。

タカミツ そうだけど、

ヨウコ 応援してあげるんですよ。

タカミツ と思ったんだけど、

ヨウコ え？

タカミツ そう思ってたんだけど、

ヨウコ けど？

タカミツ 応援は心の中だけでいいかなと。

ヨウコ は？

タカミツ 応援はしてるよ、してるんだけどね。

ヨウコ 大丈夫？

タカミツ え、うん。

ヨウコ 何かあったの？

タカミツ え？

ヨウコ 保守派だったあなたが、トモキ君の応援するって言い出したのよ。それが何、今度は心の中での応援だ？ 意味が分からないでしょ。辻褄があわなすぎる。

タカミツ 俺の中では辻褄があってるんだけど、やっぱり意味不感ある？

ヨウコ あるある、大あり。ツッコミどころ多すぎて、もうお手上げ。

タカミツ 大穴万馬券じゃないんだ。

ヨウコ あなた、ふざけてるの？

タカミツ え、だって、前にお前が、

ヨウコ 私が？ 私が何かあるって言うの？

タカミツ いや、いい。

ヨウコ もう勘弁してよ。何がしたいの？ どうしたいの？

タカミツ 俺は別に、

ヨウコ 別に？

タカミツ 無駄な対立は避けたいと思ってるだけで。

ヨウコ え？

タカミツ だってそうだろ。誰も喜ばない争いをするより、ここは平和に穏便に。

ヨウコ 議論していくことが大切だって見栄切ってたのは、どこの誰よ。

タカミツ 馬鹿だよなあ。

ヨウコ はあ？

タカミツ いや、そんなこと言った自分が愚かだなと。

ヨウコ 愚か？

タカミツ だって、愚かだろ？ 議論したところで解決をみなければ、それはただの争いだろ。議論して対立を明確にするってことは、互いの溝を深めるだけじゃないか。溝さえ見えなきゃ、対立してるかどうか曖昧なまま、手を取り合うことだってできるかもしれないのに。

ヨウコ あなた、あなたが、ポスターをうちの扉に2枚貼ればいいって言ったのよ。トモキ君のと、対立する人の2枚。

タカミツ 危なかつたな、対立する2人のポスターだなんて、もしそんな事してたら、近所のお笑い草だよ。

ヨウコ そうよ、そう私が言ったら、あなたなんて言ったか覚えてる？

タカミツ いや、  
ヨウコ 二人とも名前が広がるからいいじゃないかって言ったのよ。

タカミツ 記憶にない。  
ヨウコ 記憶にない、じゃないでしょ。言ったのよ、あなたが。

タカミツ お前がそう記憶しているなら、言ったのかもしれないけど、本当に言ったかどうかは確かめようがなくて。  
ヨウコ は？

タカミツ お前を混乱させてしまったことに対しては、謝ることしかできないんだけど、実際どうだったかっていうのは、今となっては、

ヨウコ あなた、いつから政治家になったのよ。  
タカミツ 政治家？

ヨウコ 政治家の言い逃れそのものじゃない。  
タカミツ ツ そう思わせたなら、

ヨウコ だから、その言い方やめてって言うてるの。  
タカミツ ……

ヨウコ トモキ君、昨日届けにきたのよ、ポスター。印刷できたからって、家まで。あなたはいなかったけど。

タカミツ 仕事なんだから。

ヨウコ トモキ君、平得さんが応援してくれるなんて思ってなかったから、すごく嬉しいんですけど、頭まで下げたのよ、さわやかな笑顔で。

タカミツ 好青年ではあるんだよ。

ヨウコ そう、本当に好青年だった。ルカが不登校になってた時だって、あそこまでルカのことを気にかけてくれた人は、トモキ君だけだった。若いのにしっかりした子よね。トモキ君がやってた塾講師って時給でしょ？ ルカのための時間には時給は出ないのに。それなのに、トモキ君はルカのために動いてくれたの。そのことで、どれだけルカが助けられたか。

タカミツ ルカの話は、本当にありがたかったと思ってる。だからこそ、こども食堂を手伝うこととで恩返ししたいと思ったんだし。

ヨウコ こども食堂はいいの。じゃあ、どうして政治活動も応援するなんて言ったの？ 気の迷い？ いい人ぶりがかっただけ？

応援するって言ったなら、ちゃんと約束果たしてよ。口では良いこと言って、有限無実行だなんて、トモキ君に対する裏切りでしょう。

タカミツ 裏切りとか、そんな物騒な。

ヨウコ そうじゃない、あなたのしてることは裏切りじゃない。私でさえ、トモキ君を応援する「とにしたの」。

タカミツ え？

ヨウコ これから、トモキ君の活動をお手伝いすることにしたの。  
タカミツ お前が？

ヨウコ そう。  
タカミツ 人の噂話は大好きなくせに、自分が噂されることは大嫌いなお前が？

ヨウコ 誰だってそうじゃない。でも、決めたの。  
タカミツ 決めたって、  
ヨウコ あなたが、議論が大切なんだって、トモキ君の考えをあんなんにも熱心に語ったから。これ

まで事なかれ主義の秘密主義を通してきたあなたが。  
タカミツ 俺のせいだって言うのか、トモキ君を応援するのは。

ヨウコ まさか。でも、あなたがキツカケだったのは確か。だから、トモキ君のことを調べて、直接話を聞きたいと思っただから。

タカミツ 弱ったな。

ヨウコ 弱ったのはこっちよ。いきなり政治思想を変えられたなんて。

タカミツ 政治思想を変えたわけじゃない。

ヨウコ 変えてるじゃない。もとはといえば、保守だったのを革新に変えたし。でも、それはいいとしても、革新に変えたと思っただけ、またすぐ保守に戻るって。

タカミツ 元に戻ったんだから、変わってないってことじゃないか。ほら、これこそ保守。野球の捕手じゃなくて、保つて守るの保守。

ヨウコ あなた、面白くないこと言っただけ、話をはぐらかそうとしてる？

タカミツ 面白くないこと？

ヨウコ 話の核心を外して言葉を返すなんて、やっぱり政治家じゃない。

タカミツ ちよっと、トモキ君の影響受け過ぎだっただけ。

ヨウコ 私は、トモキ君の影響を受けたんじゃない。あなたの影響を受けてるの。あなたに合わせようとしているの。分かる？

タカミツ 分かっているよ。

ヨウコ 私たちは家族なんだから。家族で違う政治思想なんて成り立たないでしょう？ だから、

私はあなたの影響を受けたいの。その上で、トモキ君に賛同したの。トモキ君の影響を受けたわけじゃなくて。

タカミツ 荷が重いな。

ヨウコ 家族を持つことはそういうことじゃない。ルカは私たち夫婦を見て育つよ。

タカミツ そうだな。

ヨウコ 影響を受けて当然でしょう？

タカミツ ルカが俺たちの影響を受けるのは仕方ないだろ。親力チャって言うからな。俺らが外れなのか当たり前なのか分らないけど。

ヨウコ あなたは外れだと思っただけ？

タカミツ 大穴万馬券ではないんだろ？

ヨウコ は？

タカミツ 当たり前ではないかもな。外れでもあつてほしくないけど。

ヨウコ 曖昧な答えね。

タカミツ 曖昧にできるものは、曖昧なままでもいいんだよ。

ヨウコ トモキ君の嫌いそうな答えね。

タカミツ 彼は清濁併せ呑むことができない子だから。

ヨウコ え？

タカミツ 清濁併せ呑むって言うだろ。トモキ君は濁ったものは呑めないんだよ。育ちがいいから。

ヨウコ 育ちがいいってトモキ君が？

タカミツ トモキ君が相手にしている子どもは、お世辞にも生育環境が恵まれてるとは言えない子ばかりだけど、彼は違う。彼の育ったうちは、人を助けることができるほど、金銭的にも時間的にも余裕があるんだよ。

ヨウコ いいところのお坊ちゃんだったんだ、トモキ君。

タカミツ だから、綺麗なものだけ呑んで生きてこれたんだよ。

ヨウコ ルカも、

タカミツ 大丈夫、ルカはまだ、綺麗なものしか呑んでいないよ。

ヨウコ せめて一緒にいる間は、

タカミツ 分かっているって。たとえミサイルが落ちて来ても、ルカだけは守る。守ってみせる。もし家がつぶれても、町が焼け野原になっても、島ごと沈没しても、ルカだけは守ってみせるよ。

タカミツ、出て行くこうとする。

ヨウコ どこに行くの？

タカミツ え、トイレ。

ヨウコ トイレ？

タカミツ うん、

ヨウコ なんだ、トイレ。朝こはんは？

タカミツ 尿意を催しては、戦はできぬってね。

タカミツ、出て行く。

ヨウコ 戦があったら、真っ先にシェルターに隠れるくせに。

飛行機が上空を飛行する音。

ヨウコ 「戦争のない平和な世の中になりますように」 飛行機100機にお願いすれば、どんな願い事でも叶う。でも、ヘリコプターを見るとやり直し。ただのおまじないだと分かっていたけど、10歳の私は、必死に飛行機を探した。アメリカの飛行機にも、中国の飛行機にも、どこの国の飛行機にも願った。自衛隊でも、米軍でも、兵器を積んでいるかもしれない飛行機にでも、私は願った。「戦争のない平和な世の中になりますように」。今、私の上には、多くの飛行機が飛んでいる。

ヨウコ、空を見上げる。

暗転。

## SCENE・5

ユイ よーい、スタート。

タイキが腕立てを始める。

ユイ 身体曲げちゃダメだよ。

ユイ そうそう、綺麗綺麗。

ユイ もっとしっかり下げて。そんなんじゃカウントしてもらえないよ。

ユイ 肘もっと伸ばす。もっともっと。

ユイ ほら、スピード落ちてる。ほら、頑張って。

タイキ、床に伏せてしまう。

ユイ ちょっとダメだよ。休憩するなら、そのままの態勢で休憩しないと。失格じゃんか、失格。

タイキ 無理無理。

ユイ 何言ってる。だ30秒しか経ってないのに。

タイキ (言い訳)

ユイ 甘いこと言ってるんじゃないの。

タイキ (さらに言い訳)

ユイ 2分よ、2分しなきゃいけないの。態勢崩したら失格なの。

タイキ (もっと言い訳)

ユイ 73回だからね。わかってる？ 1級になるためには73回できなきゃいけないんだよ、2分

間で。目標は3秒で2回。

タイキ いいよ、俺は。

ユイ 何、弱音吐いてるわけ。

タイキ だって、体力テストは入隊してからなんでしょ。今じゃなくていいじゃん。

ユイ そんな生ぬるいこと言ったら、入ってすぐに逃げ出すって。面接のときに、あ、こいつすぐに逃げ出す奴だなんてバレルよ。

タイキ でも、腕立て1回もできなくても入隊できたって書いてあったし。

ユイ うそっすっすっす。

タイキ うそ？

ユイ そんなの事実なわけないさ。1回もできない奴が国を守れるね？

タイキ 入隊してから嫌でも鍛えられるから、いいんだって。

ユイ いいや、ダメだね。そんな奴は訓練についていけないね。

タイキ やればできるからいいんだって。

ユイ そう、やればできるくせに怠けてやらない、それが一番ダメさ。

ユイ、腕立てをしてみせる。

タイキ え・・

ユイ 女の私だって、これくらい朝飯前なのに。

タイキ すげえ。

ユイ すごくない。これくらい普通。

タイキ ユイが自衛官になったら？

ユイ 年齢制限。

タイキ ああ、32歳まで。

ユイ こう見えて35歳。3歳もオーバー。

タイキ 残念。

ユイ タイキ、筋肉あるんだから、もっと鍛えておこうよ。面接のとき、鍛えた筋肉あるってことを

アピールしておかなきゃ。

タイキ いいよ、そんなやる気アピール、だるい。

ユイ 体力テストで合格しないと昇進もできないらしいよ。

タイキ 腕立てができなくても、他で点数稼げば。

ユイ 他の？

タイキ 腕立ては苦手だし。

ユイ じゃあ、次は腹筋。

タイキ 腹筋？

ユイ そう。

タイキ 明日やろう、明日は腹筋。

ユイ は？

タイキ 全身筋肉痛は明日に支障がでるじゃん？ もう既に腕プルプルだし。

ユイ タイキ、明日の予定は？

タイキ 明日？

ユイ そう、明日の予定。

タイキ まあ、いろいろ。

ユイ いろいろ？

タイキ えっと、試験に向けて勉強したり、

ユイ 漫画読んでたりってこと？

タイキ ネットで調べ物したり、

ユイ ユーチューブ見たりね、

タイキ 読解力を鍛えて、

ユイ ネットフリ見て、

タイキ 緊張感に耐える訓練もして、

ユイ サバゲーして、

タイキ あとは息抜きかな。

ユイ あとは昼寝ね。

タイキ 筋肉痛のせいで、充実した一日が台無しになったら可哀そうだろう？

ユイ 筋肉痛でも全く問題のない一日だね。

タイキ なんて、そうなる？

ユイ そうしかならん。はい、横になって。

タイキ 横？

ユイ 早く。

ユイ、タイキを横にならせ、足を無理やり抑える。

タイキ いたたた、

ユイ はい、2分数えるよ。

タイキ マジ？

ユイ 腹筋は71回だからね。はい、手は頭の後ろ。指組んだらダメだからね。いくよ、よーい、スタート。

タイキ、腹筋を始める。

ユイ 肘は腿まで。触らないとカウントなしだよ。ほら、下げた時は肩甲骨が床に触れる直前まで。

タイキ、腹筋をやめる。

タイキ やめた。

ユイ ちよつと休憩するときは、手を頭から離したらダメ。

タイキ もういい、やめた。

タイキ、起き上がる。

ユイ タイキ？

タイキ 自衛官になるの辞める。

ユイ え？

タイキ 向いてないんだよ、俺には。

ユイ ちよつと。

タイキ 腹筋2分間で71回？ 腕立て73回？ 無理だろ、そんな。なんでそんなしんどいことしなきゃならないわけ？

ユイ 体力ないと、国守れないでしょ。すぐ負けちゃうよ。

タイキ 無理無理無理無理。無理ゲー。

ユイ じゃあ、1級じゃなくても、

タイキ もちろん1級じゃなくてもいいんだけど、だけど、俺無理だわ、きつと不合格。合格ラインまでたどり着かない。

ユイ 不合格でも何度でもやり直しできるって書いてあったぞ。

タイキ やり直しできるじゃなくて、できるようになるまで受け続けさせられるって事だろ？

ユイ 大丈夫だって。いくらなんでも最低ラインぐらい、タイキならクリアできるって。

タイキ もしできなかつたら？ 休日返上で筋トレ？ 泣きながら小便たらしちゃってオイッチニーって？

ユイ 汗はたらしても、小便はたらずな。

タイキ 鬼の上官にしごかれたら、小便だつてたれるよ、きつと。その上、その鬼上官は俺より年下なんだろうな。年下のムキムキ野郎で。

ユイ 上司が年下だつていいさ。そんな肝っ玉の小さいこと言っていないの。今時、普通普通。年下上司様様だつて。

タイキ ユイには大丈夫でも、俺には無理。俺のガラスの心が、

ユイ いらんいらん。さっさと碎け散ってしまえ。

タイキ ガラスの心の俺には、向いてないんだって。

ユイ ガラスじゃなくて、プライドでできるプラスチックじゃないの、ヒビの入った。

タイキ 琉球ガラス？

ユイ 違う。言つなれば、琉球プラスチック。

タイキ 琉球ダイナミック？

ユイ それ、逆。

タイキ 実は、連れに言ったんだよね、

ユイ なんて？

タイキ 自衛隊のこと。そしたら「やめとけ」って「お前には絶対無理」って。

ユイ 私も周りに話した。

タイキ え、俺のこと？

ユイ タイキが自衛官の試験受けるって。

タイキ ええー、マジ？

ユイ みんな反対すると思ってたわけ、あのタイキがって。

タイキ あのタイキがって、

ユイ こんな時期だし。

タイキ まあね。

ユイ でも、違ったさ。本人がやりたいならやるべきだって。ぜひやってほしいって。

タイキ 俺の周りと正反対だね。

ユイ 驚いたんだけど。

タイキ なに、もしかしてユイ、俺に自衛隊に入ってほしいと思ってる？

ユイ タイキが決めるべきだと思ってる。

タイキ いやいや、このノリはなってるって言うてるでしょ。前に話した時は反対っぽかったのに。

ユイ タイキこそ、前回はやる気あったのに、何？ 今日ひひよっちゃって。

タイキ そりゃ、最初はよく分かってなかったし。どれくらい厳しいのかとかさあ。

ユイ 人の役に立ちたいって言うってたさ。どうせ仕事するなら、大義名分がほしいって。

タイキ それはそうんだけど、

ユイ 地元帰ってきて、実家近くの彼女ん家に居候して、ろくに仕事もしない31歳が、一念発起し

ようとしてたんじゃないの？

タイキ そうだったんだけど、やっぱ動機が不純かなって。

ユイ 動機なんか何でもいいの、大切なのは中身。

タイキ いや、その、中身もフヒャフニャっていうか、

ユイ このままでいいの？このままフライドだけ高いフニャフニャプラスティックで。

タイキ プラスティックはフニャフニャではないと思うけど。

ユイ 人の役に立とうよ。ひきこもってばっかじゃなくて。

タイキ 人の役には立ちたいけど、

ユイ 自衛隊ならそれができるとって思ったんじゃないの？

タイキ うん、まあ、

ユイ でしょ。こんな俺でも何かできるんだって、証明したかったんでしょ。

タイキ そこまで大それたことじゃないんだけど、ねえ、ユイ、さっきから言葉きつくくない？ こん

な俺でもとか。

ユイ タイキがしっかりしてないからでしょ。

タイキ まあ、腕立てだって、ユイよりできないし。

ユイ お母さん、言ってたよ、ぜひタイキを自衛隊に連れてくれて。

タイキ え、おつかあ？

ユイ そうでもないかと、あの子は変わらないって。

タイキ ちょっと待って。おつかあにまで話したの？

ユイ お母さんには言わなきゃいけないでしょ、一番に。

タイキ 今言うタイミングじゃないでしょ。試験受かってからでしょ、言つとしても。

ユイ タイキ、分かってる？ 自衛隊だよ。普通の仕事と違うんだよ。自分の息子が危険なところに行

くかもしれないんだよ。っていうか、何かあったら真っ先に行って、国のために戦うんだよ。一

番にお母さんでしょ。

タイキ 無駄に心配させなくても。

ユイ 何言ってるの、心配するのは当然でしょ。少しでも早く伝えないと。

タイキ え、でも、おつかあは、えっと・・・

ユイ うん、なってほしいんだって、自衛官に。

タイキ . . .

ユイ 驚いた？

タイキ うん。

ユイ 私も驚いた。お母さん、泣いてた。

タイキ え、

ユイ 外だったから、ちょっと困った。そば食べながらだったし。

タイキ そば、

ユイ 泣かれるって分かってたら、もうちょっと違うもの食べたのに。

タイキ いや、そういう問題じゃなくて。

ユイ タイキの子供の頃の夢、初めて聞いた。

タイキ 子供の頃の夢？

ユイ ヒーロー。

タイキ ヒーロー？

ユイ 「お母さんを守るヒーローになる」。

タイキ え？ え、え？

ユイ お母さん、思い出したって言いながら、泣いてた。自衛官になろうとしてるって聞いて、思い出したらしい。

タイキ 全然覚えてない。

ユイ 殴られたことあったんだってね、お母さんの代わりに。

タイキ . . . .

ユイ 大人になったら、ヒーローになるんだって。酔っ払いじゃなくヒーローになるって。

タイキ 言ってたかなあ。

ユイ いいよ、私も応援する。今なら私も応援できるかも。

タイキ 今ならって、この情勢ならってこと？

ユイ え、

タイキ 中国の？

ユイ ああ、それもあるけど、

タイキ それもって、

ユイ 私の言った「今なら」はそれじゃなくて、

タイキ それじゃなくて？

ユイ . . . .

タイキ 何さ。

ユイ 死んでも補償手厚いだろうし。

タイキ え、死んでもって、

ユイ 公務災害になるんでしょう？ 任務中に死んだら、

タイキ やめるよ、縁起でもない。

ユイ 冗談に決まってるじゃん。

タイキ だとしても、

ユイ まずは筋トレ。そして試験対策。そうだ、晩御飯は筋肉弁当にしよう。

タイキ 筋肉弁当？

ユイ プロテインもいるかな。

タイキ いらないよ、そんなの。

ユイ 自衛官は、みんな飲んでるらしいよ。

タイキ え、そうなの？

ユイ 同級生情報。飲まないで筋肉が成長しないんだって。どんだけ成長させようとしてるんだろうね。切らしてるから、買ってくる。

タイキ ユイ、飲んでたんだ。

ユイ 腹筋でもして待ってて。腹筋の後はランニングね。

タイキ いや、買わなくていいから。

ユイ 遠慮なんかしないでいいから。

タイキ ユイ、

ユイ、出ていく。

タイキ ぼくの夢 3年 おおかわたいき

ぼくは大きくなったら、ヒーローになりたいです。ウルトラマンティガのようにかっこいいヒーローがいいです。強くなって、大好きな人を守る大人になりたいです。もしヒーローになれなくても、早く大人になりたいです。大人になったら、普通の人間だとしても、ヒーローのように生きています。ヒーローならお母さんを守るからです。ぼくには力がありません。今のぼくは弱いです。

お母さんは大人で強いけど、やっぱり弱いです。だからぼくはお母さんを守るヒーローになります。自衛官になってヒーローになります。国を守るヒーローになります。話し合いだけでは解決できないとき、敵が攻めてくる時があるかもしれません。そのときは僕が国を守ります。そのために僕は生きています。それがヒーローの生き方なのですから。いけ！ フヒヤフニヤプラスティックヒーロー……！

ヒーローポーズを決めるタイキ。真面目であればあるほど滑稽である。

暗転。

## SCENE・6

サチヨとサクラが入って来る。

サチヨ 座ってなさい。何か飲み物入れるから。

サクラ うん、

サクラ、座る。

サチヨの声 麦茶でいい？ カフェオレもあるよ。

サクラ カフェオレがいい。

サチヨの声 わかった。

サクラ、膝が痛いのか、さすっている。

サチヨの声 病院、行かなくて、本当にいい？

サクラ 大丈夫。

サチヨの声 この時間なら、まだ間に合うから、念のため……

サクラ ほんまに大丈夫やから。明日になっても痛かったら病院行くし、ちゃんと。

サチヨの声 わかった。

サクラ うん、

サチヨ、カップを持ってやって来る。

サチヨ はい。

サクラ ありがとう。

サチヨ ……サクラ、ごめんね。

サクラ え、

サチヨ ばあちゃんのせいで。

サクラ おばあちゃんのせいで。

サチヨ でも、

サクラ あの人たちのせいでもないし。転んだのはうちなんやから。

サチヨ そうかもしれないけど、サクラには何も関係ないことさね、

サクラ あの人たちって、おばあちゃんの……

サチヨ うん、

サクラ やっぱり。

サチヨ 一緒に活動してた人たち。

サクラ だよね。

サチヨ サクラ会ったことあったっけ？

サクラ 学校の帰り、見かけた。2週間ぐらい前？

サチヨ 2週間前？

サクラ 1か月ぐらい前やっけ、おばあちゃん、あの人たちと公園の前に立ってたでしょ、旗持って。

サチヨ ああ、  
サクラ 声掛けようかなと思ったんだけど、先輩と一緒にやったから。  
サチヨ 先輩？  
サクラ バイト紹介してくれた先輩。  
サチヨ それでも声掛けてくれたら、  
サクラ 「やめてほしいわ」って、  
サチヨ え？  
サクラ そう言ってたから、先輩が。  
サチヨ ああ、  
サクラ やから、「ごめん」。  
サチヨ いいさあ、謝ることじゃないし。  
サクラ うん。  
サチヨ あるある、そういうこと。  
サクラ おばあちゃんのやってること、うちは反対やないで。  
サチヨ ばあちゃんこそ、「ごめん」な。  
サクラ なんておばあちゃんが謝るの。  
サチヨ だって、  
サクラ あの人らだって、追いかけてきたわけちゃうし。ただ、うちのことおばあちゃんの孫やって分かったから、声掛けようとしただけなんやろうし。  
サチヨ でも、びっくりしたでしょう？  
サクラ うん。つい反射的に逃げ出してきた。  
サチヨ 逃げなくてもいいのに。  
サクラ 怒られるんちゃうかって。  
サチヨ 怒られるとは思ったんだ。  
サクラ せやかて、おばあちゃんかて反対してたやん、バイトのこと。  
サチヨ そうだったね。  
サクラ やから、怒られる思って、足が勝手に、  
サチヨ そのことなんだけど、  
サクラ あ、もう大丈夫やから。  
サチヨ そうじゃなくて、  
サクラ いや、ほんまに大丈夫やし。  
サチヨ ばあちゃん、サクラによ、  
サクラ うち、辞めることにしたから。  
サチヨ え、  
サクラ せやから、大丈夫。  
サチヨ えっと、辞める？  
サクラ うん。  
サチヨ 辞めるって、  
サクラ バイト。  
サチヨ 基地で働くの辞めるの？  
サクラ そう。  
サチヨ なんて、まだ、  
サクラ ー、なんていうか、その、嫌がらせされてん。  
サチヨ 嫌がらせ？  
サクラ うん、ちょっとした嫌がらせ。  
サチヨ え、何されたん？  
サクラ なんていうか、  
サチヨ 自衛官に何かされたん？  
サクラ ちゃうちゃう、自衛官やなくて。  
サチヨ え？  
サクラ 先輩。  
サチヨ 先輩？  
サクラ ほら、「やめてほしいわ」って言った先輩。

サチヨ 紹介してくれた人？ バイトを。  
サクラ そうなんやけどな、  
サチヨ うん、  
サクラ 気に入らんのやって、うちのことが。  
サチヨ その先輩が？  
サクラ なんていうか、先輩、気になる自衛官がいたらしいねん、うちは全然知らんかってんけど。  
サチヨ うん、  
サクラ その人が、うちのこと「可愛い」って言うてるらしくて、これも、うちは全然知らんねんけど。その人が先輩にも、うちのこと聞いてたらしくて。自分の連絡先をうちに渡してほしいうって、こそつとメモ渡したんやって、先輩に。うちは渡してもらってないし、見せてもらってもないから分からんねんけど。なんかうちには知らんかったり分からんことばっかりやねんけど、なんか知らんうちに、先輩に嫌われてもうてみたい。  
サチヨ はあ、  
サクラ そんなこんなで、色々されるようになって。  
サチヨ 大丈夫なん？  
サクラ まあね。  
サチヨ その先輩に、送ってもらってたんじゃないの、帰りだって。  
サクラ ああ、それは最初のうちだけ。途中から先輩と同じ日に入る事少なくなってたし、一緒に入る人が迎えに来てくれたから。  
サチヨ 知らなかった。そんな色んな人のお世話になってたなんて。  
サクラ 通り道のスーパ〜とかで待ち合わせしてたから、そこまで迷惑はかけてないと思う。  
サチヨ 他の人にも話したの？ その先輩のこと。  
サクラ 別に言うほどでもないかなって。でも、ややこしいのはもう勘弁やな〜って。  
サチヨ ひどいことされてないのは良かったけど、  
サクラ こっちでまで何かあったら、居場所ないやんか、うち。  
サチヨ 辞めることは話したの？  
サクラ うん、今月の、今のシフト終わったら辞めますって。  
サチヨ そう。  
サクラ やから大丈夫。おばあちゃんの友だちに、これ以上なんか言われることないはずやし。言われても、「孫はもう辞めました」ってはっきり言えるやろ？  
サチヨ そのことなんだけどよ、  
サクラ 何、まだなんかあんの？  
サチヨ あんたの事じゃなくて、  
サクラ うちの事やなくて？  
サチヨ ばあちゃんよ、  
サクラ おばあちゃん？  
サチヨ あの会、脱退したんよ。  
サクラ え、そうなん？  
サチヨ うん。  
サクラ もしかして、うちが基地で働いていたことがバレたから？ あ、でも、それはさっきやから…  
サチヨ え？  
サチヨ いつ辞めたん？ さっきなわけないよな。  
サチヨ 昨日。  
サクラ 昨日？  
サチヨ そう。昨日、事務所に行って、手続きしてきたの。  
サクラ ってことは、あの人たち、うちが基地で働いていること、前から知ってたってこと？  
サチヨ え？  
サクラ うちが基地で働いていること知られたから、おばあちゃん、いづらくなったんちゃうの？  
サチヨ 違う違う。  
サクラ え、じゃあ、  
サチヨ ばあちゃんが働くことにしたから。  
サクラ は？  
サチヨ ばあちゃんよ、来月から基地で働くことになったさ。  
サクラ 嘘やろ？

サチヨ 本当。

サクラ おばあちゃんがピアパブで？ 自衛官相手に？

サチヨ 違う違う。

サクラ せやかて、自衛官しかおらんやんか。

サチヨ 食堂。ピアパブじゃなくて。

サクラ え？ 食堂？

サチヨ うちの会社が駐屯地の食堂を運営することになって、ばあちゃん、そこに行くことに決まっ  
たの。

サクラ え、おばあちゃん、基地反対運動とかしてたやん、あの人たちと。

サチヨ そうなんだけどね、

サクラ それなのに、そこで働くの？

サチヨ 働かないわけにはいかないから。

サクラ 今のところは？

サチヨ 閉鎖になるんだって。だから、今のこの人は、みんな移動になったんよ。

サクラ でも、おばあちゃん、それでええの？

サチヨ ・ ・ ・

サクラ 良くないやろ、ええわけないやんか。

サチヨ 仕方がないから。

サクラ でも、辞めることはできるんやろ？ 会社辞めたらええやん。

サチヨ 辞めるって、

サクラ 辞めるべきやって。そんな反対しているところで働くんって、どう考えたっておかしいやん。

サチヨ だから、脱会したの。基地で働きながら、反対運動はできないし。

サクラ え、辞める方が逆じゃない？ 辞めるとしたら仕事じゃないの？

サチヨ 同じこと言われた。

サクラ やろう？ なんで働くん。

サチヨ 背に腹は代えられないからかな。

サクラ なんで？

サチヨ 仕事なくなるのは、やっぱり、

サクラ 他で働けばいいやんか。

サチヨ サクラには分からないことだから。

サクラ 嫌なところで自分曲げてまで働かんでも。

サチヨ それに、分からなくていいことだから。

サクラ 仕事なんて他にもいっぱいあるやんか。

サチヨ 簡単に言わないの。

サクラ せやかて、

サチヨ サクラ、あんたばあちゃんが幾つか知ってる？ 高校生とは違つき。身体の節々は痛いし、  
年齢的に立ち仕事はできないし。だんだんボケてきたん？て言われることだってあるし。そう簡単  
に仕事が見つかるわけじゃないんよ。

サクラ せやけど、

サチヨ 今の会社を辞めたら、次に仕事ができるかどうかさえ分からんの。もしできたとしても、体  
力的に大丈夫かどうか。それに、今より多くの給料がもらえることなんて絶対ないんよ。サキの借  
金の返済もあるし、治療費もあるし、

サクラ 母さんの借金も病院のお金も、うちが稼ぐから。

サチヨ あんたに稼げるわけじゃないでしょう。

サクラ なんとかするから。なんだったら高校辞めたっていいし。そうだ、高校辞める。そして働く。

借金も病院のお金も、全部うちがなんとかする。してみせる。

サチヨ いけません。

サクラ うちのことなんやから、うちが決める。

サチヨ あんたは高校出て、そして大学にも行きなさい。

サクラ は、大学？ なんで大学なんか、

サチヨ あんたはまだ若いんだから。もっともっと世間を知っていかないといけないの。

サクラ 世間を知ることぐらい、大学行かんでもできる。

サチヨ それはそう、大学行かなくても勉強はできる。けど、あんたには新しい世界が必要なの。お

母さんの世話ばかりで、友だちにも馴染めず、学校にも居場所作れなくて、

サクラ おばあちゃんには関係ないやろ！！

サチヨ 関係ないことない。

サクラ うちの問題やねんから。

サチヨ お金さえあれば、なんとかなることなり、ばあちゃんはなんとかしたいんよ。

サクラ おばあちゃんは無関係なことやって言ってるやろ。お金のことはうちの家族の問題やねんから。

サチヨ そう、家族のことだから。サキは私の娘で、サクラは私の孫なんだから。

サクラ うるさいなあ！ せやから、おばあちゃんは無関係ない言ってるやろ！ うざいねん！

サチヨ ……そうか、うざいか、

サチヨ、出て行くこうとする。

サクラ おばあちゃん、

サチヨ 横になってくる。

サチヨ、出て行く。

着信音が鳴る。

サクラ はい、もしもし……え、お母さん？ どうしたん、大丈夫なん？ ……うん、元氣やで。お母さんは？ ……そうか、じゃあ、このまま落ち着いてるとええな……うん、石垣までは来えへんで。利子より飛行機代のほうが高くなるもんな……うん、卒業したら大阪戻ろうと思ってる。そしたら病院にも頻繁に行けるし。なんなら、病室から働きに行ってもいいし。うちな、早く働きたいねん。働いてお金欲しいねん。お金さえあれば、なんとかなることいっぱいあると思うんよ。でも、正しく生きてたらお金貯まらへんねんな。残念な世の中やわ、ほんまに。

どうやら、着信音はサクラにしか聞こえないものだったようだ。

暗転。

## SCENE・7

ヨウコが朝ごはんの準備をしている。

タカミツはソファに座っている。

ヨウコ ルカは？

タカミツ え？

ヨウコ まだ寝てるの？

タカミツ 起きてるよ。

ヨウコ 起きてる？

タカミツ さっきからずっと爪磨いてる。

ヨウコ いや、あなたじゃなくて。

タカミツ え？

ヨウコ ルカ。

タカミツ ああ、ルカ。

ヨウコ そろそろ起こしてきて。

タカミツ 今日はいいんじゃないか。

ヨウコ 朝ご飯できたから。

タカミツ 休みなんだし。

ヨウコ 起こして来てくれないってこと？

タカミツ 忙しいんだよ。

ヨウコ 誰が忙しいの？

タカミツ え？

ヨウコ ルカが忙しいわけじゃない。

タカミツ それはそうだろう、寝てるだけなんだから。

ヨウコ じゃあ、誰が忙しいの？

タカミツ 俺だよ。

ヨウコ あなたが？

タカミツ トモキ君のピラが刷り上がったらしいから、ポステイングっていうのか？ それを手伝

うことになってて。

ヨウコ ポステイング？

タカミツ そう。こども食堂をもっと利用してもらおうって。

ヨウコ ああ、なんだ、こども食堂、

タカミツ こども食堂を利用する人が固定化されてきてるんだよな。

ヨウコ そうなんだ、

タカミツ だけど、もっと利用したい人はいるはずなんだよ、潜在的に。だから、掘り起こした

めにも、こども食堂の認知度をあげなきゃって。

ヨウコ トモキ君、頑張ってるのね。

タカミツ 信念があるから、彼には。

ヨウコ よかった。トモキ君と上手くやれてるのね。

タカミツ え？

ヨウコ ううん、なんでもない。ちょっと気になってただけ、ポスター貼るの断っちゃったじゃない？

タカミツ ああ、そのこと、

ヨウコ ごめんごめん。こども食堂とは関係ないことだもんね。

タカミツ 全く関係ないってわけではないんだけどね、

ヨウコ え、

タカミツ こども食堂はトモキ君が運営しているんだし、

ヨウコ うん、

タカミツ 彼の信念のもとに動いているから。

ヨウコ それはこども食堂がでしょ？

タカミツ そうだよ。

ヨウコ じゃあ、

タカミツ でも、彼の信念は切り離すなんてできないから。

ヨウコ え？

タカミツ 何事も話し合っていくことが大切。賛否両論、右も左も喧々諤々、っていうのが彼の政

治思想だから、こども食堂も必然的に、

ヨウコ ちょっと待って。

タカミツ なに？

ヨウコ あなたはこども食堂を手伝ってるのよね？

タカミツ うん。

ヨウコ ポステイングするピラはこども食堂のなのよね？

タカミツ そうだよ？

ヨウコ そう、それならいいんだけど、

タカミツ 今日ポステイングするのはこども食堂だけなんだよ。

ヨウコ だけ？

タカミツ 本当は、トモキ君の政策のことを書いたピラも一緒に配る予定だったんだけど、印刷が

間に合わなかったんだよ。なんだっけ？ ほら、蠅？ じゃなくて、カマキリ？ なんか分から

ないけど、とにかくそれが上手くいってなかったみたいで、仕上がりが遅れてて、

ヨウコ ちょっと待って。全然意味が分かんない。

タカミツ だよな、

ヨウコ だよなって、あなた意味分らないって、分かってやってるの？

タカミツ やってるっていうか、やってるのはトモキ君だけ。

ヨウコ いきなり感とか、意味不感とか、どこの騒ぎじゃないでしょ。奇想天外 支離滅裂 斬新

奇抜の無茶苦茶よ。

タカミツ 四字熟語が四つも。

ヨウコ それくらい、訳分かんないってこと。

タカミツ 最近物忘れがひどくて。

ヨウコ だからって許されるレベルじゃないでしょ。

タカミツ そうかな、近いところはいつてはすんだけど。蠅でもカマキリでもなくて、でも、

昆虫で、

ヨウコ 昆虫？

タカミツ そう。印刷発注する時に、「こ」で切ってくれていうマークの名前。蠅でもカマキリでもなくて、

ヨウコ あなた、何の話してるの？

タカミツ だから、印刷の時に、「こ」で切ってくれてつける。

ヨウコ 印刷のマークの話してるんじゃないの。あなたの行動のこと。

タカミツ 俺の行動？

ヨウコ あなた、トモキ君のこと、応援しないって言ったじゃない。それなのに、

タカミツ 応援しないなんて言っていないよ。

ヨウコ 言ったじゃない。

タカミツ 言っていない。

ヨウコ 言ったわよ。

タカミツ 言っていないって。

ヨウコ 言った。

タカミツ 言っていない。ってこのままじゃ、いくら議論しても決着しない。

ヨウコ 議論することが大切なんじゃないの？

タカミツ そうだよ。そうんだけど、平行線のままじゃどうしようもないだろ。

ヨウコ 無駄な対立ね。

タカミツ あ、トンボだ。

ヨウコ とんぼ？

タカミツ 思い出した、トンボだよ。

ヨウコ え？

タカミツ 蠅でもカマキリでもなくて。

ヨウコ とんぼが何。

タカミツ 印刷のマーク。トンボが上手くいってなかったから、遅れたんだよ。

ヨウコ ああ、

タカミツ あああって。

ヨウコ とんぼが飛んでるのかと思ったじゃない。

タカミツ 来週、トモキ君のビラも上がってるはずだから、手伝いにいこう、一緒に。

ヨウコ は？

タカミツ 二人の仕事が終わった夕方からでも。

ヨウコ 何言ってるの？

タカミツ いや、仕事終わりが嫌なら、休みの日でも、

ヨウコ 仕事終わりが嫌とかじゃなくて、

タカミツ あ、ルカの晩御飯気にしてるなら、ルカも一緒に配ればいいんじゃないか。そしたら、

ヨウコ あなた、どこまで極楽とんぼなの。

タカミツ 極楽とんぼ？

ヨウコ 手伝えるわけじゃないじゃない。

タカミツ なんで？

ヨウコ なんてって、

タカミツ 夕飯のこと気にしてるなら、どこかで外食しても、

ヨウコ そういふ問題じゃないでしょ。

タカミツ じゃあ、お弁当？

ヨウコ だから、

タカミツ 俺が作ってもいいけど、

ヨウコ そうじゃなくて、

タカミツ ルカに作らせる？

ヨウコ　なんでそうなるのよ。

タカミツ　だって、

ヨウコ　どの面下げて、手伝いに行くのよ。

タカミツ　どの面って、顔は変えられないけど、

ヨウコ　当たり前でしょ。

タカミツ　化粧濃くしてみる？

ヨウコ　は？

タカミツ　いや、今のままでいいと思うよ、今の化粧のままで。

ヨウコ　トモキ君がどう思うと思うのよ。

タカミツ　どうって、どうも思わないと思うけど、

ヨウコ　そんなわけないじゃない。

タカミツ　気にしてないって。

ヨウコ　気にしてなくても、おかしいと思うに決まってるじゃない。

タカミツ　ちょっと変だと思っても、

ヨウコ　そう、変でしょう。

タカミツ　ちょっとは変だとしても、おかしいとまでは、

ヨウコ　おかしいでしょう。

タカミツ　お前が思うほど人は気にしてないって。

ヨウコ　誰だっておかしいって思うわよ。

タカミツ　お前、自意識過剰なんじゃないか？

ヨウコ　は？

タカミツ　みんながお前の化粧のこと気にしてるわけないだろ。

ヨウコ　化粧？　私の？

タカミツ　今のままで大丈夫だから。

ヨウコ　大丈夫？

タカミツ　この年になって厚化粧とかしたらみっともないだろう。

ヨウコ　何言ってるの？　化粧のことなんか話してない。

タカミツ　だって、じゃあ、何がおかしいとか、

ヨウコ　あなた、私の化粧がおかしいって言うの？

タカミツ　え、

ヨウコ　ちょっと変だと思っても、って私の化粧のどこが変なのよ。

タカミツ　いや、それは言葉の綾で、なんていうか、

ヨウコ　もっいいい。どうせあなたに化粧のことなんて分からないんだから。

タカミツ　・・・

ヨウコ　都合が悪くなったら、黙るんだから。

タカミツ　いや、いいよ。

ヨウコ　いいよ、じゃないでしょ。

タカミツ　いや、いい。

ヨウコ　で、私の化粧のことじゃなくて、

タカミツ　ああ、

ヨウコ　今さらまた手伝いに行くのがおかしいって言うてるの。

カミツ　おかしいとまでは、

ヨウコ　おかしいでしょ。だって、これまで近くにはいても全然手伝わなかったのが、急に手伝い

出したかと思ったら、いきなり手伝いの止めたのよ。それなのに、また手伝い出すだなんて。

タカミツ　そんな気にしてないって。仕事が忙しくなったから、手伝いに来れなかったと思っただけじゃないのか。

ヨウコ　仕事が忙しくて、家の塀にもポスター貼れなかったって？

タカミツ　それぐらい忙しくて疲れることだって。

ヨウコ　あるわけないでしょ。ものの何秒で終わるじゃない。

タカミツ　何秒じゃないよ、何分だって。

ヨウコ　一緒でしょ。

タカミツ　秒と分は一緒じゃない。60倍も違う。

ヨウコ でも、うちの理由は違つじやない。トモキ君の応援を止めたからポスター貼るの止めたんじやない。

タカミツ 応援止めたからじやないだろ。応援はずっとしてゐるって。

ヨウコ 心の中で？

タカミツ そう、心の中で。

ヨウコ 表立っては応援してないじやない。

タカミツ そんなことはないよ。一度表立っては止めたけど、またこうして復活してるし。

ヨウコ だから、それがおかしいのよ。

タカミツ おかしくないだろ。  
ヨウコ おかしいでしょ。私ははっきりトモキ君に言ったわよ。「ごめんなさい、やっぱり応援止めますって。」

タカミツ え？

ヨウコ 一度手伝っておいて、ポスター貼るの止めるなんて失礼じやない。そんなひどいことするんだから、理由をはっきり伝えるべきだって。

タカミツ で、お前言ったのか？

ヨウコ ええ。

タカミツ なんて？

ヨウコ 旦那が応援するなと言つので、これ以上お手伝いできません。ついては、うちにポスターも貼れませんって。

タカミツ 本当にそこまで言ったのか？

ヨウコ ええ。

タカミツ なんて言わなくていいことまで言つんだよ。

ヨウコ 私はあなたみたいないい顔しいじやありませんから。

タカミツ 言わない方がいいことだつてあるだろ。

ヨウコ そうよね、あなたが円形脱毛症を隠してたのに、PTAで話しちゃった時も同じ事言つてたわね。

タカミツ 当り前だろ。

ヨウコ 自分のパンツを買おうと女性の下着フロアをウロウロしてて店員さんに声掛けられた事

も、脚のすね毛を剃ろうと血だらけになって、夏中ずっと長ズボン履いてた事も、乳首から一本だけ伸びた毛を抜こうとして悲鳴を上げた事も、なんで言つんだつて怒つてたわね。

タカミツ お前、わざとだろ。

ヨウコ 何が？

タカミツ 言わなくていいことをペラペラと、

ヨウコ 害のない事しか話してないでしょう。

タカミツ 俺のことばかり、

ヨウコ 自分のことを言うわけがないじやない。

タカミツ トモキ君にだつて、俺のせいにして。

ヨウコ 私は事実しか話してません。

タカミツ 旦那が応援するなつて、そんなこと俺は一言も言つてないだろ。

ヨウコ 言つてたじやない。

タカミツ 言つてない。

ヨウコ 言つてました。

タカミツ 言つてないよ。つてまた水掛け論になる。

ヨウコ とにかく、私はこれ以上トモキ君の政治活動のお手伝いはしません。そして、あなたにもしてほしくありません。

タカミツ お前が手伝うか手伝わないか、それを俺が強制することはできないと思つてる。それは仕方ないこととして、でも、俺が誰を応援するかまでお前にとやかく言われるのは心外だな。

ヨウコ 私は、これまであなたに合わせて変えてきたじやない。

タカミツ 変えてくれなんて一度も頼んでないじやないか。

ヨウコ だから、家族なんだから違つ政治思想なんて成り立たないつて言つてるの。そんなの毎日喧嘩になるじやない。

タカミツ 喧嘩じゃなくて、話し合えばいいんだよ。互いの主張をぶつけ合つて議論すればいい。  
ヨウコ 毎日、家で議論なんかしたくありません。

タカミツ 毎日ではなくてもいいけど、その話題になった時は、

ヨウコ その話題になったら、毎回議論しろって？ テレビで自衛隊の話題が出たら、夫婦会議が始まるの？ 私は自衛隊に頑張ってもらいたい、俺は自衛隊に今からでも出て行ってほしいって？

タカミツ それこそ民主主義。

ヨウコ 中国の漁船がニュースになったら、対抗する力が必要だとか、力を持つことは挑発でしかないって？ そうやって二人で家の中で言い合うの？ 晩御飯食べながら。

タカミツ ご飯中が嫌なら、ご飯食べて終わってからすればいいじゃないか。

ヨウコ そういう問題じゃないでしょ。私たち家族が喧嘩しながら議論したところで、基地は現実にあるし、中国の脅威は消えないのよ。

タカミツ そうだよ、だからこそ議論が必要なんだよ。

ヨウコ それこそ無駄だって言ってるの。あなたが言ってたのよ、無駄な対立は避ければいい。避

けられない奴は馬鹿だって。

タカミツ 馬鹿上等。愚直に生きて何が悪い。

ヨウコ あなたの馬鹿に、私まで巻き込まないでちょうだい。

タカミツ 巻き込んでなんかいないだろ。勝手に巻き込まれてきただけだろ。

ヨウコ あなたの行動が私たちの、私とルカの生活に直結するの。そんなことも分からないの？

タカミツ まるで俺が変な宗教にのめりこんだみたいない方、

ヨウコ 宗教の方がましよ。とにかく、これ以上、政治に首を突っ込まないで。ポスター貼るのも

ビラ配るのも、どこの誰のだって絶対に嫌ですからね。あなたがするのも絶対に止めてよね。

タカミツ だから、お前に俺のことまで、

ヨウコ ルカがまた学校に行けなくなったら、あなた責任とれるの？ 無責任なことしないでよ。

ヨウコ、出て行く。

ルカがやって来る。

タカミツ ルカ、起きてたのか。おはよう。

ルカ、そのまま出て行く。

タカミツ どこか出かけるのか？ ルカ？

タカミツ、ルカを追って出て行く。

## SCENE・8

ルカ①②③④がやって来る。黄色い雨傘をさし、黄色いレインコートを着ている。

ルカ① 申し訳ないが、私はここで演説などしたくなかった。私は自由の女神のようにまつりあげられなくなかった。私には関わりないことだ。私は一市民でいたい。一庶民でいたいのだ。

ルカ② 日常の些末な事に一喜一憂し、高価でなくていい、身近で作られた物を丁寧に調理した美味しい物を食べ、疲労ではなく活力を貯められる時間だけ、自分にできる仕事を誠実にして、友人と手を取り、時にはケンカをして帰ってくる子どもを待ちわび、太陽の匂いで満たされたお布団に身体を埋めて眠りたいのです。そして、そうする権利が私にはある。そうする権利が私の家族にもある。私の隣人にもある。私と同じ国の人にもある。そして、世界の人類全てにあるのだ。

ルカ③ しかし、なぜ今、私はその権利を行使できないのだろうか。なぜ今、私たちはその権利を行使できないのだろうか。ここで自由や民主主義のために戦うということが、自由をはく奪されるリスクを負わなければならないのか、家族へ危害を加えられるかもしれない恐怖におびえなければならぬのか、命さえ保障されない状況に甘んじなければならぬのか。私は悲しい。悲しい。本当に悲しい。

ルカ④ 絶望が私を覆い、光を遠ざける。絶望に身を委ねるのは容易い。しかしだからこそ、絶望の中にあっても、自分を失ってはいけない。相手を慮る心を手離してはいけない。強くしたたかに生きていくのです。生きてさえいれば、希望の光は消えませんが。

ルカが、いつの間にかルカ①②③④の真ん中にいる。

ルカ 今こそ皆の思いを一つにしよう。独裁者たちは自らの権利を守り、私たちの権利を略奪する。独裁者たちは自らの自由を隠し、私たちに不自由を強要する。今こそ立ち上がろう。ごく普通のありふれた日常のために。平和を願う気持ちのもとに、今こそ、一つになろう。

ルカとルカ①②③④が集まり、黄色い雨傘を回す。

雨だ。

雨が降ってきた。

雨？

雨なんか降ってないよ。

降ってるよ。

降ってない。

こんないい天気なのに？

太陽キラキラギンギラ。

晴天雨天に曇天模様。

どんてん？

天井？

天井模様ってどんな模様？

てんでん模様。

曇り空ってこと。

なんだ、曇天か。

そのどんてんか。

知ってるの？

当り前じゃん。それくらい知ってるよ。

嘘つき。

嘘じゃないもん。

じゃあ聞くな。

菊菜？

菊菜、春菊、苦菜は苦手。

好き嫌いはダメ、ママに怒られるよ。

うちのママは怒らないもん。

怒らないママなんてママじゃない。

だって、うちのママはわがままだもん。

わがまま？

そう、わがままだから、怒らない。いつも怒られてる。

あ、オスプレイ。

雄スプレー？

雄のスプレー？ なんか臭そう。

じゃあ、雌のスプレーだったら臭くないの？

雌スプレーも臭そう。

催涙スプレーには「注意を」。

催涙弾にも「用心」。

スプレーもミサイルも怖くない。

私たちには傘がある。

オスプレイが飛んでる。

そんなわけないじゃん。

飛んでるもん。  
そんな危ないものが飛ぶわけがない。  
でも、飛んでる。  
オスプレイは危なくないよ。  
危なくないよ。  
オスプレイは平和な土地では飛ばないんだよ。  
飛ぶよ。  
飛ばないよ。  
オスプレイは平和な土地にするために飛ぶんだよ。  
飛ぶよ。  
飛んでないよ、墜ちてきてる。  
墜ちてきてる？  
墜ちないよ。  
オスプレイは墜ちないって偉い人が言ってたもん。  
そうだよ、大丈夫。  
でも、墜ちてきてるよ。  
大丈夫だからこの空を飛ばすんだって言ってたもん。  
どこに墜ちるかな？  
私の家に墜ちたらどうしよう。  
偉い人のお家に墜ちるかな。  
だから、墜ちないよ。  
墜ちたら大惨事だ。  
第三次世界大戦だ。  
オスプレイはヘリコプター？  
飛行機でしょ？  
ヘリコプターだよ。  
飛行機だよ。  
ちがう、航空機だよ。  
高級機？  
高いの？  
高い高い、バリくそ高い。  
僕の貯金全部より？  
もちろん。偉い人のお小遣いより高い。  
パーティー好きの誰かさんの裏金より？  
高い高い、きつと高い。  
バーベキュー好きの誰かさんのお鼻より？  
ピノキオと同じくらい。でも、オスプレイの方がもっと高い。  
だって、お国のプライドかかかってるもん。  
属国のプライドはズタズタだけど。  
オスプレイはみんなの夢を載せて飛ぶ。  
みんなの希望を載せて飛ぶ。  
みんなの平和を載せて飛ぶ。  
オスプレイってカッコいい。  
オスプレイ好き。  
私、嫌い。  
好きになれよ。  
嫌になれよ。  
好き嫌いはダメ、ママに怒られるよ。  
うちのママはわがままだから。  
わがままだから、怒らない。いつも怒られてる。  
怒らないで。怒られるから。

うちのママに怒られませんが、  
うちのママが怒られませんが、  
風に吹かれますように。

風船だ。

風船が降ってきた。

風船？

なんか書いてある。

見えないよ。

普通選挙って書いてある。

風船なんか見えない。

見えるよ。

見えないよ。

じゃあ、これは何？

これは普通選挙。

普通選挙が落ちてきた。

普通選挙が落ちてくるの？

こんなにいい天気なのに？

太陽キラキラギンギラ。

青天の霹靂、びっくり仰天。

普通選挙が降ってきたってことは、  
これから普通選挙になるの？

ここは今、普通選挙のはずだよ。

でも、落ちてきたよ。

普通選挙が落ちちゃったの？

割れた。

風船割れちゃった。

普通選挙が落ちて割れちゃった。

これで一国二制度もお終いだ。

おお姉妹だ。

二人は姉妹。

中国と香港は姉妹？

姉妹じゃなくてお終い。

じゃあ、台湾は？

姉妹じゃなかったら、兄弟？

隠さなきゃ。

隠れなきゃ。

顔を見られたらお終いだ。

頭隠して尻隠さず。

心の中を隠さなきゃ。

隠し撮りには、こ注意を。

壁に耳あり障子に目あり。

どこかで誰かに見られてる。

どこの誰だか分からぬように、

マスクOK。

グラスOK。

傘OK。

これでカンペキー市民。

これでカンゼン一庶民。

タカミツがやって来る。

タカミツ あれ？

ルカ①②③④、タカミツの存在に驚く。

タカミツ ルカ、いつの間に帰ってたんだ。

バレた。

隠れてないじゃん。

退散。

解散。

雲散霧消。

いつも心には太陽を！

ルカ①②③④、黄色い傘を掲げたかと思うと、急いで傘を畳み、八重山の伝統行事アングマのモーヤーを歌いながら、そそくさと逃げていく。

## SCENE・9

ヨウコがやって来る。

ヨウコ ルカ、おはよう。

ヨウコ 起きてたの？ 朝ごはんあるけど、食べる？

ルカ、出て行こうとする。

ヨウコ また寝に行くの？

ルカは出て行く。

タカミツ おはようじゃないだろ、もう夜だぞ。

ヨウコ 夜？

タカミツ 朝からずっと寝てたのか？

ヨウコ 何言ってるの？

タカミツ とくに陽だって暮れてるじゃないか。

ヨウコ そんなわけじゃないじゃない。太陽が出てないだけでしょ、今日は曇りなんだから。

タカミツ お前、寝ほけてるんじゃないのか。

ヨウコ は？

タカミツ どう考えたって、今は夜だろ。

ヨウコ おかしなこと言わないでよ。

タカミツ おかしなこと？

ヨウコ 年をとると、昼と夜の区別がつかなくなるっていうけど、

タカミツ おい、人をボケ老人扱いするなよ。

ヨウコ 昼夜逆転してるのは、ルカと一緒にね。

タカミツ 昼夜逆転なんかしてないだろ。ルカだってさっきまで出掛けてたんだし。

ヨウコ 出掛けてた？

タカミツ レインコート着て、

ヨウコ まさか。

タカミツ 休みの日にルカが出掛けるなんて珍しい。

ヨウコ あの子、明け方近くまでずっと起きてたのよ。

タカミツ そうなのか？

ヨウコ だから、出掛けるわけじゃないじゃない。

タカミツ だけど、実際、

ヨウコ あなた、ルカのこと何も知らないのね。

タカミツ え？

ユイがやって来る。

ユイ タイキ、準備できた？

タイキの声 あと少し。

ユイ ねえ、どっちの車で行く？

タイキの声 車？

ユイ そう。

タイキの声 ユイのでもいい？

ユイ 分かった。運転は？

タイキの声 ええ？

ユイ 運転はどっちがする？ タイキ？ それとも私？

タイキ、やって来る。

タイキ 運転もユイでいい？

ユイ だよね、分かった。

タイキ 実はお酒飲んじやっただよね。

ユイ え、いつの間に？

タイキ さっき。

ユイ さっきって、何それ。

タイキ ごめん。

ユイ 出掛けるって分かって飲んでん？

タイキ だって、

ユイ だって、じゃないさ。

タイキ 少しならいいかって。

ユイ なんで飲むかなあ。今からお母さんの手術だっていうのに。

サクラが部屋にいる。

サチヨがやって来る。

サチヨ 忘れ物ない？

サクラ 分かんない。

サチヨ 分かんない、じゃないでしょ。

サクラ 大人って、「忘れ物ない？」ばかり言うけど、分かるわけないっちゃんねん。忘れ物ある

って分かってたら、そんな忘れ物やないやろ。

サチヨ そんな屁理屈言わないの。

サクラ 屁理屈ちゃう、事実やん。

サチヨ 心配して言ってるんだから。

サクラ もし忘れ物したら、「ほら言わんこっちゃない。』忘れ物ない？』って訊いたのに「って言う

やろ？

サチヨ それは確認しなかったからでしょ。「忘れ物ない？』って言われたら、もう一度確認するで

しょ、普通。

サクラ 出掛けようとしてるのに、全部荷物出して確認しろって？

サチヨ 大切なものだけあるか確認すればいいでしょ。

サクラ どれが大切かなんて、分かんないんだって。

サチヨ でも、今回は簡単でしょう。4カ月前に持って来たものをまた持っていっただけなんだから。

サクラ とにかく、自分の物は全部詰めた。詰め込んだだけやけど。

サチヨ 開ける時大変じゃないの。

サクラ ええんやって。どうせ段ボールの中でグチャグチャになるんやから。

サチヨ 相手のお宅で広げる時、恥ずかしいでしょう。

サクラ 恥ずかしくない。

サチヨ ご迷惑にだってなるし。

サクラ ならないって、心配性だなあ。  
サチヨ だって、居候の身なんだから。  
サクラ 何度も言ってるけど、居候ちやうから。シェアハウスっていうのは、自分用の部屋があるの。  
自分用っていうか、私とお母さんのやけど。そこで開けるから大丈夫。

タカミツとヨウコ。

ヨウコ ルカが夜中に何してたか分かる？

タカミツ 夜中？

ヨウコ そう。

タカミツ どうせ本でも読んでたんたら。

ヨウコ 勉強。

タカミツ 勉強？

ヨウコ 英語の。

タカミツ テストでも近いのか？

ヨウコ 終わったとこ。

タカミツ テスト終わったのに勉強って、偉いじゃないか。

ヨウコ やっぱ何も知らないのね。

タカミツ やっぱり？

ヨウコ 最近、毎晩明け方まで勉強してたのに。

タカミツ 中学校のテストがいつかなんて知ってるわけないだろ。

ヨウコ 自分の娘のことじゃない。

タカミツ 返ってきた答案を見せてくれないんだから、分かるはずないだろ。

ヨウコ 学校のテストなんてどうでもいいけど。

タカミツ どうでも良くはないだろ、テストなんだから。

ヨウコ ルカは勉強しなくても、いい点数とれるから。それなのに、なんで本気で英語の勉強する気

になっただか分かる？

タカミツ それは・・

ヨウコ どうせ想像もつかないんでしょうけど。

タカミツ 嫌な言い方するなあ。

タイキとユイ。

タイキ 俺の車ガソリンもうすぐなくなりそうだから。

ユイ また？

タイキ だから、ユイの車でユイの運転になるかなって。

ユイ 動いてるうちに入れてよ。前にみたいなのは、ごめんだからね。

タイキ 分かってるよ。

ユイ 普通は半分切ったら入れるでしょ。警告灯ついても無視するって、

タイキ あ、やっぱ俺の車で行く？

ユイ なんで？

タイキ ユイの運転で。

ユイ ガソリンないんじゃないの？

タイキ 忘れそうだからさあ。ユイがいるうちに入れた方がいいかなって。

ユイ は？

タイキ ガソリン、心配じゃん？

ユイ タイキ、私にガソリン代出させようとしてない？

タイキ バレた？

ユイ ガソリン入れてる余裕はないから。

タイキ ユイ、そんなに金欠なの？

ユイ 違う。時間の余裕。

タイキ ああ、そっち。

ユイ 手術10時からでしょ。少しでも長くお母さんと話してきた方がいいんじゃないの？

タイキ うん、でも、  
ユイ でも？

サチヨとサクラ。

サクラ おばあちゃんが考えてる居候とはちやうんねんで。

サチヨ だって、ばあちゃん、シエアハウスなんて洒落たところに住んだことないから。

サクラ 洒落たところではないって。母子家庭のシエルターみたいなことやねんから。

サチヨ やっぱりばあちゃんも一緒に行こか？

サクラ おばあちゃんは仕事があるやんか。責任者なんやろ？

サチヨ そうだけど、

サクラ 大丈夫やから。

サチヨ サキが退院するまで、サクラ一人でしょ？ 女子高生が一人だなんて。

サクラ 一人やないし。シエアハウスなんだから。

サチヨ でも、もし変な男の人が別の部屋にいたら、

サクラ せやから、母子家庭やねんから大丈夫。男は中学生以上は住めへんルールらしいし。

サチヨ それならいいけど。

サクラ そんなに心配しなくて大丈夫やから。紹介してくれた人、良い人なんやろ？

サチヨ うん、こっちの会で一緒だった人だから、

サクラ お母さんの知り合いとかだと、なんか裏があつたり騙されたりしそうやけど。

サチヨ 大阪に引っ越してから、困ってる人の支援する仕事してるって言うてたから、その人は大丈夫なんだけど、それでも、

タカミツとヨウコ。

ヨウコ あなたには言わないでって言われてたんだけど、

タカミツ 言わないでって、

ヨウコ 留学したいんですって。

タカミツ 留学？ 留学ってルカがか？

ヨウコ 他に誰がいるのよ。

タカミツ なんでそんな大事なこと、俺に言わないでってなるんだ。

ヨウコ 私に聞かないでよ。

タカミツ お前にしか聞けないだろ。

ヨウコ 本人に聞いてよ。

タカミツ 留学って夏休みとかに短期留学したいってことか？ それとも、

ヨウコ 向こっの高校に行きたいらしい。

タカミツ え、

ヨウコ 3年間。

タカミツ 高校を海外にするってことか？

ヨウコ 思い切ったことするわよね。

タカミツ まだ行くと決まったわけじゃないだろ。

ヨウコ カナダだって。

タカミツ カナダ？

ヨウコ 高校ももう決めてるらしい。

タイキとユイ。

タイキ もしかしてユイ、隠して俺に試験受けさせようとしてる？

ユイ 裸になんきや分らないんだから。

タイキ そりゃあ、裸で試験は受けないけど。

ユイ だから大丈夫。

タイキ 共同生活で、風呂も一緒なんでしょ？

ユイ まあ、その時は、

タイキ すぐバレるじゃん。鬼上官にめっちゃ怒られてしごかれて、それからクビでしょ？  
ユイ 大丈夫。

タイキ 大丈夫って何が大丈夫なの？ どうせ辞めるなら、しごかれる前に辞めたい。  
ユイ 入隊する前に、身体検査でバレてどうせ入れないだろうから。

タイキ え、じゃあやっぱり試験受ける意味ないじゃん。

ユイ 意味はあるさ。

タイキ ないない、何もなし。ただの時間の無駄。

ユイ 無駄じゃなくて、時間稼ぎさ。

タイキ 時間稼ぎ？

ユイ お母さんに夢を見させてあげるために。

サチヨとサクラ。

サクラ おばあちゃんが心配してもしようがないやろ。

サチヨ 迷子になったりしない？

サクラ その人が駅まで迎えに来てくれるって。

サチヨ サクラは会ったことないでしょ？ 誰だか分からない事も、

サクラ 大丈夫、打ち合わせ済み、旗持って立っててくれるって。

サチヨ 旗？

サクラ 憲法9条を守れ！っていう旗。

サチヨ それって、

サクラ 嘘嘘。そんな旗持って待ち合わせするわけないやん。黄色いハンカチをバックにつけてるからって。

サチヨ 分かんないよ。もしかすると、黄色いハンカチと旗と両方持つてるかも。駅前での活動中かも。

サクラ え、うちも仲間に入れられるってこと？

タカミツとヨウコ。

ヨウコ トモキ君にアドバイスもらってたらしい。

タカミツ トモキ君に？

ヨウコ ルカ、今は学校行ってたんだけど、面白くないんですって。その話をしたら、留学も考えてみたらって、トモキ君に言われたらしくて。

タカミツ ルカが留学したいって言い出したのは、トモキ君の影響だっていうのか？

ヨウコ 嫌そうなおぶりね、トモキ君の影響っていうのが。

タカミツ そういうわけじゃ、

ヨウコ 私たちは揺れてばかりだったから、トモキ君の件では。

タカミツ 揺れてたわけじゃないだろ。

ヨウコ 揺れてたじゃない。

タカミツ 揺れてました。

タカミツ 揺れてないって、また水掛け論になる。

ヨウコ ルカは、

タカミツ え？

ヨウコ どう思ってた見てたんだろうなって、こんな二人のこと。

タイキとユイ。

ユイ 大手術するんだよ。その後も抗生剤とか飲んで病氣と闘うんだよ。夢ぐらい見たいじゃん。

タイキ 夢から覚めたら現実知るのに？

ユイ 今の状況よりは、夢見てた方が幸せでしょ。

タイキ そんなに俺の状況って最低？

ユイ 条件確認してなかったなんて、信じらんないけどね、私には。

タイキ だって、思わないさ、刺青ダメだなんて。

ユイ 背中に昇り龍のある自衛官なんてアウトでしょ。

タイキ 俺の龍は昇ってないし。

ユイ 昇ってるかどうかは関係ない。

タイキ 背中でもないし。

ユイ だから、背中かどうかや模様なんか関係ないの。

タイキ たかがかわいい龍のタトゥーだよ？

ユイ 残念だったね、あと何年かしたら認められたんだろうけど。その頃にはタイキ、年齢制限でアウトだから。

タイキ 自衛官にさえなれないのかあ。

ユイ どんなタイキでも、お母さんにとってはヒーローだから。

いつの間にか、ルカがいる。

ルカ お父さん、お母さん、お元気ですか？ そっちはまだ暖かいですか？ カナダは西と東では温度が全く違い、私のいる東海岸は日中でも8度しかなく、コートを着て震えています。日本の内地より寒いんじゃないかな。小さい頃に旅行で連れて行ってもらったことしかないのですが。私はよく日常会話が英語でできるようにしました。でも、授業の内容は難しく、ついてくのに必死です。こっちで、いろんな国の友だちができました。友だちと話していると、今まで私はなんて小さな事に悩んでいたんだろうと目から鱗でした。ドイツの友だちに、お父さんの仕事の事を話したら、「信じられない。早くやめるべきだ」と言われました。お父さん、ごめんね。私たちのためにいっぱい働いてくれるのに。スウェーデンの友だちには、「お母さんが少ししか働いていないのはサボってるだけだ」と言われました。お母さんもごめんなさい。私たち家族のために家のことをしてくれているからなのに。こんなにも家族への考え方が違うことに驚いています。ちょっとムカついたりもしましたが、そのことで自分の家族のことをもっと好きになれています。

タカミツ 優柔不断、

ヨウコ 煮え切らない、

タカミツ どっちつかず、

ヨウコ 宙ぶらりん。

タカミツ いいんだよ、それで。

ヨウコ 頼りない親よね。

タカミツ 優柔不断の何が悪い。

ヨウコ 煮え切らなくて宙ぶらりんでも、

タカミツ どっちつかずで何が悪い。

ヨウコ ルカは私たちを見てくれているから。

タカミツ これからもっと働くか。

ヨウコ 驚かないでよ、ルカの留学費用聞いて。

ルカ 韓国の友だちには、自衛隊と軍隊の違いを聞かれたり、中国の友だちには香港の民主化や尖閣諸島についての意見を求められたりします。

ユイ 前に「今なら応援できる」って言ったけど、

タイキ え？

ユイ やっぱり応援できない。

タイキ ユイ？

ユイ タイキのお母さんに死んでほしくないから。タイキにも死んでほしくないし。

タイキ 大丈夫。おっかあは死なない。

ユイ 自衛官になること、応援しないよ。

タイキ うん。

ユイ でも、試験は受けるんだよ。お母さんの手術が成功したら、本当のこと言おう。

ルカ 高校生ってこんなに難しいことにも意見を言わないといけないんですね。たぶん日本にいたら

興味を持たなかっただろうことを、いっぱい調べ、いっぱい話し合っ、いっぱい頭グルグルして  
います。

サチヨ いいさあ、それがいい。あなたも活動しなさい。

サクラ うちが？

サチヨ そう。

サクラ 無理無理。

サチヨ 強くなりなさい。

サクラ 強くって、

サチヨ 自分の意見をちゃんと主張できる人間になるの。ばあちゃんとは違って。

サクラ おばあちゃん？

サチヨ サクラはサクラの道を行きなさい。

ルカ トモキ先生から聞いていた以上に、世界は広いんだと実感しています。留学させてくれて本当  
にありがとう。

ルカ、出て行く。

ブランコに乗っている6人。

ヨウコ あなたなら大丈夫よ。政治色のない人で通ってるから。

タカミツ どんな意見にしろ、言っていかなきゃ、言っていくことで議論が生まれるんだから。

タイキ どうせ身を粉にして働くなら、大義名分っていうか人の役に立ちたいなって。

ユイ タイキは国を守りたいの？ タイキがそんなこと言つとは、

サチヨ あんた、駐屯地の中で働いてるの？ やめなさい。

サクラ 面白そうやんか、基地の中で働けるなんて。

タカミツ 議論して対立を明確にするってことは、互いの溝を深めるだけじゃないか。

ヨウコ 私たちは家族なんだから。家族で違う政治思想なんて成り立たないでしょう？

タイキ 自衛官になるの辞める。向いてないんだよ、俺には。

ユイ 分かってる？ 自衛隊だよ。普通の仕事と違うんだよ。自分の息子が危険なところに行くかもし  
れないんだよ。

サクラ 辞めるべきやって。そんな反対しているところで働くなんて、どう考えたっておかしいやん。  
サチヨ お金さえあれば、なんとかなることなら、ばあちゃんはなんとかしたいんだよ。

タカミツ 喧嘩じゃなくて、話し合えばいいんだよ。互いの主張をぶつけ合っ、議論すればいい。

ヨウコ 私たち家族が喧嘩しながら議論したところで、基地は現実にあるし、中国の脅威は消えない  
のよ。

ルカ、黄色いレインコートを着て、黄色い傘をさしてやってくる。

ルカ あ、オスプレイ。

6人 (ルカのオスプレイをかき消すように) 雨だ。

ルカ オスプレイが飛んでる。

6人 (ルカのセリフをかき消すように) 雨が降って来た。

オスプレイが飛行する音。

暗転。

おしまい。

※上演の際は、下記URL連絡ください。南松正馬 nansen\_hokuba@yahoo.co.jp